

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 cm R Q D └ [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( N値~深度 ) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)										
													0	10	20	30	40												50									
96			花崗斑岩	緑灰			III <sub>E</sub> bg β		95.46m : 55° の割れ目沿いに幅10~15mmが褐色化し、硬さ「D」に軟質化する。上端側に幅7mmの石英脈状に伴うが、同脈は途中で尖滅している。	25	CH'																											
															95.90~96.00m : 割れ目が10~20mm間隔で交差し、風化で褐色化、硬さ「D」に軟質化するが、砂状部は分布しない。	37																						
97													Bg	2	96.60~96.63m : 割れ目沿いに幅10mm程度が淡褐色化し、幅1~2mmの砂状部を挟む。	16																						
															97.36m : 35° 割れ目に淡緑色シルト~細砂脈を挟む。その直下の97.65mまで密着度の低い割れ目が多く分布する。	7																						
98													IV <sub>E</sub>		97.96~98.48m : CM 岩片は硬いが、割れ目沿いの砂状化が認められる。粘土化部や粘土脈は少ないが長石の白濁化が多い。	10		CM'																				
								98.36m : 50° の割れ目に幅2~5mmの灰緑色シルト~粗砂を挟む。 98.48~101.32m : CL 割れ目沿いの砂状化部が多くなる。粘土は殆んど分布しないが、長石は概ね白濁化する。99.44m以浅は岩片は硬質、以深は風化で軟質化している。	9																													
99						V <sub>E</sub>		99.16~99.45m : 長さ10cm前後の柱状コアが中石的に分布する。	11		CL'																											
							Cg	δ 3	99.44~99.90m : 割れ目沿いに風化・砂状化し、岩片自身も上下位に比べ軟質化する。特に99.76~99.90mでは40° の割れ目沿いに砂状化が進み、一部の岩片は硬さ「D」となる。	11																												
						Bg	γ 2																															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
															0	10	20	30	40												50
101			+	緑灰		Bg		β	2		100.52~101.32m: 割れ目沿いの風化・砂状化が進む。岩片も軟質化し、硬さ「C」主体で部分的に硬さ「B」が残留。長石は白濁化する。	4 (0)	CL'																		
						Vg	cg	δ	3																						
102			+	花崗斑岩		Bg	IVg	bg	β		101.32~102.05m: CM ほぼ未風化で、挟在物は分布しない。一部に密着度の低い割れ目が分布している。	6 (0)	CM'																		
						Cg	cg	γ	2																						
103			+	灰褐		Dg		δ	3		102.94~103.17m: 20~30°の割れ目沿いに風化・砂状化が広がっている。岩片自身も硬さ「D」で軟質化する。	4 (0)	CL'																		
						Bg	Vg	β	2																						
104			+	明褐灰		Dg		γ	3		103.70~104.65m: 風化が進み、岩片も含め、全体が軟質化している。所々に幅1~2mmの軟質な白色粘土を脈状に挟む。	5 (0)	CM'																		
						Bg	IVg	bg	β																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N値~深度 ) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給 圧 (kN・rpm)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)									
													0	10	20	30	40												50								
106			花崗斑岩	Bg	Vg	bg	β	2	105.14~105.19m: 上下端とも40°の割れ目に囲まれて、硬質な砂状~径2~3mmに細片化する。下端面に白色粘土がフィルム状に付着。区間内全体に径0.5mm以下の微細な黄鉄鉱が点在する。	24	CM'																										
									105.70~105.83m, 106.68~106.73m: 割れ目が交差し、径10~30mmに岩片化する。各割れ目は砂や粘土が付着していないほぼ未風化な面をもつ。	17																											
107									106.21~106.81m: ゆず割れ目が多くハンマーの強打でも分離・細片化しない。密着度の低いものは開口割れ目化している。	14		CL'																									
									107.15~107.62m: CL 割れ目沿いに径3~5mmに細片化する部分があるが、割れ目に砂状~粘土状の挟在物は分布せず。ほぼ未風化な面をもつ。面の一部は緑泥石化変質により淡緑色化するが、粘土は伴わない。	6																											
108																107.62~115.99m: CM 岩片は硬いが、割れ目が多い。110.10~114.06m間は10~30mm程度の間隔で密着度の低い層に割れ目も含んでいる。ほぼ未風化で、割れ目に挟在物は殆んど分布しない。108.00~110.10m間は、30~50°の割れ目が主体で、一部は交差して岩片状を呈する。	5	CM'																			
109								108.57~108.60m: 40°の割れ目沿いに径1mm程度砂状化する。上端面には暗緑色砂がフィルム状に付着。微細な黄鉄鉱を伴っている。	0																												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 ( N値 ~ 深度 ) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)														
														0	10	20	30	40												50													
111			+							110.40~110.51m: 白色化したゆ着割れ目沿いに分離し、開口割れ目化している。																																	
112			+							111.37m: 75~80° の割れ目沿いの一部で幅1~2mm砂状化。これに交差する30° の割れ目は止められている。砂状化部の分布は途切れており、連続性に乏しい。高角度割れ目周辺の岩盤に原岩組織が見られる。																																	
113			+							112.41~112.44m: 5° 前後の割れ目沿いに片状化するが、岩片は軟質化しない。																																	
114			+							113.56~113.60m: 傾斜25°、幅4cmのアブライト脈を挟む。花崗斑岩との境界は明瞭でゆ着している。 113.63~113.81m: 白色の潜在割れ目が5~10mm間隔で細かく分布。密着度の低いものも含む。  114.37~115.70m: 緑色化している。  114.65m: 80~85° の割れ目の一部に鏡肌と幅0.5mm以下の暗緑色粘土がフィルム状に付着。割れ目は湾曲して凹凸しているが、割れ目のみ合わせは良い。割れ目周辺の岩盤に原岩組織が見られ、系統的な割れ目も存在しない。																																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風化質	記号	標準貫入試験 ( N値~深度 ) 図	原位置試験 ( 孔内水平距離 )	室内試験	掘進速度 ( cm/時 )	掘進月日	孔径 ( mm ) / 孔壁保護	回転数 ( rpm )	送水圧 ( MPa )	送水量 ( L/分 )	排水量 ( L/分 )	試験						
																					コア採取率 ( % )	最大コア長 ( cm )					
				緑灰	Bg	IVg	bg		2	115.33~115.70m: 暗緑色鉱物(緑泥石)が径1~2mmの斑点状~幅1mmの脈状で分布する。特に前者が多い。	0 50 100 9 (9) 100 → CM'																
116			にぶい橙						3	115.70~116.40m: ベグマタイト。径1~10cm程度の橙色のかり長石。灰白色の長石。石英が多く晶出し。全体の色調が橙色を呈する。 115.99~116.49m: CL 割れ目が細かく分布し。径10~30mm主体に岩片化している。割れ目沿いの多くは幅1~3mmで砂状~細片状化する。116.18~116.37mでは石英の晶出が多く。全体が珪質となる。	9 (9) 100 → CL'																
117			花崗斑岩							β 117.21m: 70°の割れ目に幅2mmで硬質な暗緑色鉱物脈(緑泥石)が断続的に分布する。その上端側約10mmは弱く風化し淡褐色化するが劣化は伴わない。	9 (9) 100 → CM'																
118			灰褐		Bg	IVg	bg		2	118.12~119.10m: 30°前後と70~80°の割れ目が交差し。一部では径5~10mm程度で片状化している。砂状化や粘土化は伴わない。 118.23~118.53m: 20~30°のゆる割れ目が10~20mm間隔で同方向に分布。一部では密度が低く開口割れ目化している。	9 (9) 100 → CM'																
119	64.10	119.09		アブライト						119.09~120.79m: アブライト花崗斑岩との境界は漸移的である。 119.47m: 40°の割れ目に幅1mmの暗緑色粘土脈(緑泥石)を挟む。径0.5mm以下の微細な黄鉄鉱を伴う。 119.47~120.00m: CL 30~40°の割れ目がほぼ同方向に1~3cm間隔で分布する。割れ目沿いに薄く砂状化するものが多い。 119.75~119.88m: 幅1mm以下の緑灰~灰白色粘土を脈状に挟むことが多い。	9 (9) 100 → CL'																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)											
													( N値~深度 ) 図																										
		65.30	120.79	アブライト		Bg	IVg	bg	2	120.00~120.63m: 堅硬 30~50°の割れ目がほぼ同方向に分布する。白い筋状のゆ着割れ目が多いが周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。一部で開口化している。割れ目に挟在物は分布しない。				0	10	20	30	40	50																				
121						Eg	IVg			●120.63~120.65m: 破砕部 120.63~120.65m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端12~32°で湾曲して、下端32°で直線的に連続。径2~3mmの石英粒、径3~10mmの岩片を斜20%程度含む。やや軟質。オリーブ灰色を呈する。幅15~25mm。 120.65m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜32°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆んど含まない。軟質。オリーブ灰色を呈する。幅1~3m。 120.65~121.03m: CM 堅硬。やや割れ目が多いが挟在物は分布しない。上端側は緑泥石化により緑灰色を呈する。劣化はない。白い筋状のゆ着割れ目は周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。 121.03~122.23m: CH 堅硬。割れ目が少なく、柱状~長柱状 (コア長20cm以上) コアからなる。径1~3mmの暗緑灰色の緑泥石斑点が多く、全体に緑灰色を帯びる。																													
122				灰褐		Bg	IIIg		β	122.23~122.42m: CL 上位より風化がやや進み、岩芯や割れ目の一部が褐色化する。白い筋状のゆ着割れ目もハンマーの打撃で分離・細片化し易いものが多い。 122.30~122.89m: 高角度割れ目が連続する。 122.42~122.97m: CM 堅硬であるが、一部でハンマーの打撃で分離し易いゆ着割れ目も含む。割れ目は薄く褐色化するが、挟在物は分布しない。径5~10mmの橙色のかり長石の斑晶が点在し、白濁化した長石は殆んど分布しない。 122.97~123.41m: CL 堅硬。風化や変質による劣化はないが、割れ目が多く、60~70°の割れ目が同方向に1~5cm間隔で分布する。割れ目に挟在物は殆んど分布しない。																													
123				花崗斑岩		Cg	IVg	bg	2	123.41~125.38m: CM 一部で密着度の低い割れ目や潜在割れ目が分布し、ハンマーの強打で分離・細片化するものがある。ほぼ未風化・未変質で長石の白濁化は認められない。全体に径1~2mmの暗緑灰色の緑泥石を斑点状に含み全体に緑灰色を帯びる。																													
124		68.21	124.90	アブライト		Bg	IVg		β	124.30m付近は、コアチューブ引上げ時の擾乱によりコアが片状化する。																													
										124.90~129.59m: アブライト 花崗斑岩との境界は漸移的である。																													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入 ( ) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)												
														( N 値 ~ 深度 ) 図	( N 値 )																							
126			アフライト	灰褐	Bg	IVg	bg	β	2	125.00~125.38m: 白い筋状のゆる割れ目が多いが、周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。	CM'																											
																	125.38~125.70m: CL 密度度が極めて低い割れ目やゆる割れ目が10mm程度の間隔で分布。ハンマーの軽打で分離・細片化する。開口化するものも多い。 125.38m: 50°の割れ目沿いが幅10mmで径3~5mmの硬質細片状を呈する。粘土や砂は伴わない。 125.70~126.25m: CM 一部で密度度が低い割れ目やゆる割れ目を含む。割れ目に挟在物は分布しない。																					
																	126.25~127.41m: CL 一部で50~60°の割れ目沿いに径5mm前後で細片化~砂状化する。また、幅1~2mmの緑灰~灰白色の軟質粘土も挟む。硬さ「C」の岩片主体部は灰褐色で残留し、細片化~砂状化部はにぶい橙色で、全体では後者の色調が主体。127.00m以深は挟在物は分布しない。																					
127			アフライト	にぶい橙	Eg	VIg	cg	γ	3	●127.41~127.48m: 破砕部 127.41m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜50°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を含まない。軟質。灰白色を呈する。幅0.5~1mm。 127.41~127.48m: 粘土混じり礫状部 (H) 上端50°で直線的、下端50~66°で薄曲して連続。径3~5mmに細片化した岩片からなり、岩片間には幅1~2mmの軟質粘土が脈状に分布。岩片は硬さ「D」主体で硬さ「E」も少量含む。127.47m以上位のHc-1の粘土と同方向のせん断面沿いにマンガン染を伴う。にぶい黄橙色を呈する。幅40~45mm。 127.48~128.82m: CL 40~60°の割れ目が主体で、一部で幅1mm以下の風化砂状部を挟む。粘土は挟まない。 127.82~127.83m: 上端60°、下端61°の割れ目に囲まれ、径2~3mmの細片を含む硬質なか粒~粗粒砂状を呈する。砂状部中の細片に定向配列は見られない。粘土は伴わない。割れ目周囲の岩壁に原岩組織が見られる。下位の別方向の割れ目にもマンガン汚染した面が見られる。	CL'																											
																	●128.82~128.87m: 破砕部 128.82~128.87m: 砂混じり岩片状部 (H) 上端90°で幅1~2mmの軟質な緑灰色粘土脈を伴い、下端63°でいずれも直線的に連続。下位のHc-2の粘土に平行~斜交する割れ目と、これに60~90°で斜~直交する割れ目が多く、径3~10mmに岩片化している。岩片間が薄く砂状化する。粘土化は少ない。灰赤色を呈する。幅50~90mm。 128.87~128.88m: 砂混じり粘土状部 (Hc-2) 傾斜63°で上下端とも直線的に連続。径1~3mmの石英粒と岩片を20%程度含む。軟質。暗緑灰色を呈する。幅3~5mm。																					
																	●128.82~128.97m: 破砕部 128.82~128.87m: 砂混じり岩片状部 (H) 上端90°で幅1~2mmの軟質な緑灰色粘土脈を伴い、下端63°でいずれも直線的に連続。下位のHc-2の粘土に平行~斜交する割れ目と、これに60~90°で斜~直交する割れ目が多く、径3~10mmに岩片化している。岩片間が薄く砂状化する。粘土化は少ない。灰赤色を呈する。幅50~90mm。 128.87~128.88m: 砂混じり粘土状部 (Hc-2) 傾斜63°で上下端とも直線的に連続。径1~3mmの石英粒と岩片を20%程度含む。軟質。暗緑灰色を呈する。幅3~5mm。																					
128			アフライト	明褐灰	Eg	VIg	cg	γ	2	●127.41~127.48m: 破砕部 127.41m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜50°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を含まない。軟質。灰白色を呈する。幅0.5~1mm。 127.41~127.48m: 粘土混じり礫状部 (H) 上端50°で直線的、下端50~66°で薄曲して連続。径3~5mmに細片化した岩片からなり、岩片間には幅1~2mmの軟質粘土が脈状に分布。岩片は硬さ「D」主体で硬さ「E」も少量含む。127.47m以上位のHc-1の粘土と同方向のせん断面沿いにマンガン染を伴う。にぶい黄橙色を呈する。幅40~45mm。 127.48~128.82m: CL 40~60°の割れ目が主体で、一部で幅1mm以下の風化砂状部を挟む。粘土は挟まない。 127.82~127.83m: 上端60°、下端61°の割れ目に囲まれ、径2~3mmの細片を含む硬質なか粒~粗粒砂状を呈する。砂状部中の細片に定向配列は見られない。粘土は伴わない。割れ目周囲の岩壁に原岩組織が見られる。下位の別方向の割れ目にもマンガン汚染した面が見られる。	CM																											
																	●128.82~128.97m: 破砕部 128.82~128.87m: 砂混じり岩片状部 (H) 上端90°で幅1~2mmの軟質な緑灰色粘土脈を伴い、下端63°でいずれも直線的に連続。下位のHc-2の粘土に平行~斜交する割れ目と、これに60~90°で斜~直交する割れ目が多く、径3~10mmに岩片化している。岩片間が薄く砂状化する。粘土化は少ない。灰赤色を呈する。幅50~90mm。 128.87~128.88m: 砂混じり粘土状部 (Hc-2) 傾斜63°で上下端とも直線的に連続。径1~3mmの石英粒と岩片を20%程度含む。軟質。暗緑灰色を呈する。幅3~5mm。																					
																	●128.82~128.97m: 破砕部 128.82~128.87m: 砂混じり岩片状部 (H) 上端90°で幅1~2mmの軟質な緑灰色粘土脈を伴い、下端63°でいずれも直線的に連続。下位のHc-2の粘土に平行~斜交する割れ目と、これに60~90°で斜~直交する割れ目が多く、径3~10mmに岩片化している。岩片間が薄く砂状化する。粘土化は少ない。灰赤色を呈する。幅50~90mm。 128.87~128.88m: 砂混じり粘土状部 (Hc-2) 傾斜63°で上下端とも直線的に連続。径1~3mmの石英粒と岩片を20%程度含む。軟質。暗緑灰色を呈する。幅3~5mm。																					
129			アフライト	花崗斑岩	Bg	IVg	bg	γ	2	128.88~128.97m: 粘土・砂混じり岩片状部 (H) 上端63°、下端62°でとも直線的に連続。下端は幅2mmの硬質な白色鉱物脈と接する。60~70°と10~30°の割れ目が多く、径5~15mmに岩片化する。岩片間に緑色の粘土細脈や薄く砂状化を伴う。灰赤色を呈する。幅50mm。 128.97~129.95m: CL 129.11~129.26m: 風化が進み、割れ目沿いに砂状~細片状化する。マンガン汚染が見られる。 129.95~130.22m: アフライト 花崗斑岩との境界は漸移的である。 129.95~130.79m: CM 下端部の一部で割れ目沿いに幅1~3mmの砂を挟むが、これ以外に挟在物は分布しない。	CM																											
																	128.88~128.97m: 粘土・砂混じり岩片状部 (H) 上端63°、下端62°でとも直線的に連続。下端は幅2mmの硬質な白色鉱物脈と接する。60~70°と10~30°の割れ目が多く、径5~15mmに岩片化する。岩片間に緑色の粘土細脈や薄く砂状化を伴う。灰赤色を呈する。幅50mm。 128.97~129.95m: CL 129.11~129.26m: 風化が進み、割れ目沿いに砂状~細片状化する。マンガン汚染が見られる。 129.95~130.22m: アフライト 花崗斑岩との境界は漸移的である。 129.95~130.79m: CM 下端部の一部で割れ目沿いに幅1~3mmの砂を挟むが、これ以外に挟在物は分布しない。																					
																	128.88~128.97m: 粘土・砂混じり岩片状部 (H) 上端63°、下端62°でとも直線的に連続。下端は幅2mmの硬質な白色鉱物脈と接する。60~70°と10~30°の割れ目が多く、径5~15mmに岩片化する。岩片間に緑色の粘土細脈や薄く砂状化を伴う。灰赤色を呈する。幅50mm。 128.97~129.95m: CL 129.11~129.26m: 風化が進み、割れ目沿いに砂状~細片状化する。マンガン汚染が見られる。 129.95~130.22m: アフライト 花崗斑岩との境界は漸移的である。 129.95~130.79m: CM 下端部の一部で割れ目沿いに幅1~3mmの砂を挟むが、これ以外に挟在物は分布しない。																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)								
														N	値																			
		71.97   130.22	アブライト	明褐灰	Bg	IVg	bg	γ		130.58m: 80° とこれと交差する40~50° の割れ目沿いで幅1~3mmの風化砂を挟む。粘土は伴わない。また、80° の割れ目は交差する一部の割れ目を止めている場合と横断する場合がある。割れ目周囲の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 130.79~131.95m: CL 割れ目沿いに風化が進み砂状化することが多い。また、部分的に幅1mm以下の淡緑灰~灰白色粘土細脈を伴う。	0	CM'		0																				
131			花崗斑岩	にこい黄橙	Cg		δ					CL'																						
		73.08   131.79	アブライト	明褐灰	Eg	VIg	cg	γ	2	131.79m: 55° の割れ目上端側は幅10~15mmで砂状化する。灰白色粘土細脈も伴う。 131.79~134.23m: アブライト 上端は55° の割れ目、下端は破砕部となっている。 131.95~132.89m: D 風化で硬質な砂状化が拡大し、径5~20mmの岩片を含む砂礫状を呈する。砂状部中には灰白色主体の粘土化部が幅1~2mmの細脈として分布。 131.95~132.18mと132.32~132.41mは硬さ「C」の岩片のみ採取され、風化砂状部は掘削時に流失したものと推定される。 132.41~132.60m: 硬さ「C」の岩片状コア。 132.89~133.24m: CL 一部の割れ目沿いは幅1~2mm程度で砂状化の砂を挟む。 133.15~133.24m: 一部で砂状化が拡大している。 133.24~133.49m: D 砂状化が拡大し、硬質な砂状~砂礫状を呈する。変質は弱い。 133.49~133.75m: CL 20~30° と60~70° の割れ目が交差し、割れ目が多くなる。	0	D'																						
132			アブライト	明褐灰	Eg	VIg	cg	γ				CL'																						
133			アブライト	明褐灰	Eg	VIg	cg	γ				CL'																						
		74.08   134.23	花崗斑岩	明褐灰	Eg	VIg	cg	γ	4	●133.75~133.92m: 破砕部 133.75m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜45° で上下端とも直線的に連続。石英粒や岩片を含まない。軟質。明緑灰色を呈する。幅0.5~1mm。 133.75~133.80m: 粘土質礫状部 (Hb)	0	D'																						
134			花崗斑岩	明褐灰	Eg	VIg	cg	γ	2	上端45° で直線的に、下端35° で波打って連続。粘土化した硬さ「E」や硬さ「D」の岩片を20~30%含む。やや軟質。硬さ「D」の岩片中には直線的なせん断面と同方向の割れ目が分布する。緑灰色を呈する。幅30~40mm。 133.80~133.92m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端35°、下端50° でともに波打って連続。大半が粘土化した径5~10mmの岩片で、岩片間は幅1~2mmの灰白~緑灰色軟質粘土が脈状に分布する。上端側が緑灰色、下端側がオリブ灰色を呈する。幅100mm。 133.92~134.15m: 硬さ「D」主体。 ●134.15~134.23m: 破砕部 134.15~134.19m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜65° で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない。軟質。下端側に径0.5mm以下の黄鉄鉱が点在する。上端側はオリブ灰色。中央部は明オリブ灰色。下端側は暗オリブ灰色で、3色の縞状を呈する。幅20mm。 134.19~134.23m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端65° で直線的に、下端はコアが砕けているため不明 (50° の可能性あり)。径5~20mmの岩片状に砕け、その割れ目には灰緑色粘土が付着する。オリブ灰色を呈する。幅30mm以上。 134.23~134.77m: CL アブライト下端境界の直下部である。割れ目はやや多いが変化は伴わない。 134.23~134.33m: アブライトと花崗斑岩が混在した岩相を呈する。緑灰色を呈する。 134.77~135.34m: D 土砂状~径10mmの細岩片状部が主体。	0	D'																						





標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験 ( N値~深度 ) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
													0	10	20	30	40												50	
141	79.84	141.35	+	花崗斑岩					140.04~145.65m: 幅10cmを超える砂礫状の風化部は分布しないが、割れ目沿いに幅1~5mm程度で径1~3mmに砂状~片状化する割れ目を多く含む。割れ目は密着度の低い潜在割れ目が開口化したものが多い。粘土を伴う割れ目はわずかである。	5 (0)																				
			+	アブライト					141.10~141.18m: 40°の割れ目沿いに砂状化する。径5~10mmの硬質岩片(硬さ「C」)も多く残置している。 141.35~141.96m: アブライト 上下端とも機械割れのため不明。	5 (0)																				
142	80.27	141.96	+	褐灰					141.96~142.23m: 互いにほぼ直交する60°と30°の割れ目が細かく交差し、径5~10mm主体に細片化する。岩片自身は硬さ「C」と硬質で一部幅1~2mm程度で砂状化する。粘土は伴わない。	4 (0)																				
143			+						142.91~144.90m: 割れ目間隔は上下位に比べやや広くなるが、密着度の低い割れ目やゆるぎ割れ目を多く含む。	4 (0)																				
144			+	花崗斑岩					143.57~143.70m: 上端60°、下端70°の割れ目沿いに緑泥石化が強く、緑灰色を呈する。粘土化は殆んど伴わないが、径0.5mm以下の微細な黄鉄鉱と60°で幅5~10mmの石英を脈状に伴う。	6 (0)																				
			+							6 (0)																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
														( N値~深度 ) 図																							
146			花崗斑岩	褐灰	Cg			γ 2		145.65~148.26m : D 大半が割れ目沿いに風化が拡大し、硬質な砂状を呈し、径5~20mmで残留する岩片も含む。砂礫状~塊状砂状を呈する。一部で灰白~暗緑灰色粘土が脈状に分布する。																											
					Eg						145.74~146.00m, 146.91~147.50m は硬さ「D」主体の、147.91~148.01mは硬さ「C」のコアが中石的に分布する。																										
					Dg																																
147					明褐灰	Eg	Vg	cg	δ 3		146.65~146.91m : 深度と共に残留する岩片量が増加する。																										
						Dg			γ 2		146.91~147.50m : 硬さ「D」の岩片主体であるが、割れ目沿いに砂状が進む部分も含む。																										
						Eg			δ		147.50~147.82m : 上下端55°の割れ目の間は、一部砂状化を呈する。																										
148						Eg			δ		147.65m : 55°の割れ目に幅1~2mmの暗緑灰色緑泥石脈を挟む。砂状~シルト状化する。																										
						Cg			bg γ 3		147.81~148.01m : 硬さ「C」のコアが残留。割れ目は多いが、挟在物は分布しない。																										
						Eg	Vg	dg	δ		148.26~149.19m : CL 上端55°, 下端50°のほぼ同方向の割れ目で囲まれる。																										
149						Cg			γ 2		148.68m : 50°で幅1~3mmの暗緑灰色砂状~シルト状の緑泥石脈を挟む。同脈は径0.1mmの微細なセリサイトを少量伴う。 148.84m以深、割れ目沿いに幅1~2mmで砂状化する部分がある。																										
						Vg	cg				149.19~149.67m : D 割れ目沿いに風化が拡大し硬質な砂状を呈する。岩片は径10mm前後の硬さ「C」で残留し、砂礫状を呈する。灰白色粘土がわずかに点在する。下端の149.67mは40°で幅1mmの暗緑灰色砂状~シルト状の緑泥石脈を挟む。 149.41m : 34°の割れ目に幅1mmの緑灰色粘土を挟む。																										
					褐灰	Cg			γ 3		149.67~152.10m : CL 硬さ「C」と「D」の岩片からなる。 149.67~150.22m : 硬さ「C」で割れ目の一部に砂などを挟む。																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	標準貫入試験 (N値~深度) 図	原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
																								コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)
151			花崗斑岩	褐灰	Cg	bg																			
				明褐灰	Dg																				
				褐灰	Vg	cg	γ	2																	
				褐灰	Cg																				
152					Eg	Vlg	dg	δ	4																
					明褐灰	Cg		γ	2																
						Vg	cg																		
					暗緑灰																				
153					明褐灰	Eg		δ																	
					Vlg	dg	4																		
					Vg	cg	3																		
154				明褐灰	Eg		δ																		
					Vlg	dg	4																		
					Vg	cg	3																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	硬軟 状態	割れ 目の 状態	風化 状態	記 事	コア採取率 ← ( % ) 最大コア長 → cm R Q D L [ % ]	岩級 区分	孔内水位 (m) / 測定 月日	標準貫入 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図					原位 試験 ( 孔内 水平 試験 )	室内 試験 日	掘進 速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁 保護	コア チップ / ベット	給 圧 (kN ・ MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)				
													0	10	20	30	40											50			
				明褐灰					155.00~160.00m : CL 割れ目沿いは暗緑灰色の緑泥石化が進む。特に、157.89~160.00mでは緑泥石化が著しく緑灰色を呈し、幅2~20mmで砂~シルト状化する部分も認められる。	0																					
156				Cg					155.89m : 88° の割れ目に幅2~8mmの緑泥石脈を挟在する。	1																					
157				灰褐 花崗斑岩		Vg	Cg	γ	156.25m : 75~80° で幅7~8mmが径2~3mmに細片化し、岩片間に緑泥石化~シルト状部を伴う。  156.72m : 75~80° で幅1~10mmの硬質な砂状部が径1~2mmの花崗斑岩の扁平礫状部を挟んで上下位方向に連続する。下端は158.24mで、下端面には鉄肌と緑泥石粘土フィルムが付着する。156.67mには高角度割れ目とほぼ直交する割れ目が見られる。同様な暗灰色の細粒部は様々な方向の割れ目を充填している。	2																					
158				Dg					158.00~158.20m : 径5~10mmの礫状部と硬質な砂状部からなり、砂礫状を呈する。	3																					
159				緑灰					159.06~159.33m : 割れ目沿いに暗緑灰色砂状~シルト状の緑泥石が幅2~20mmで分布する。160.00mにかけて岩芯まで暗緑灰色化する。	4																					
	93.03	160.00		Dg					159.78m : 70~80° で幅1~10mmの方解石脈が膨縮しながら連続する。	5																					

孔番 : H27-B-2

深度 0.00m ~18.00m



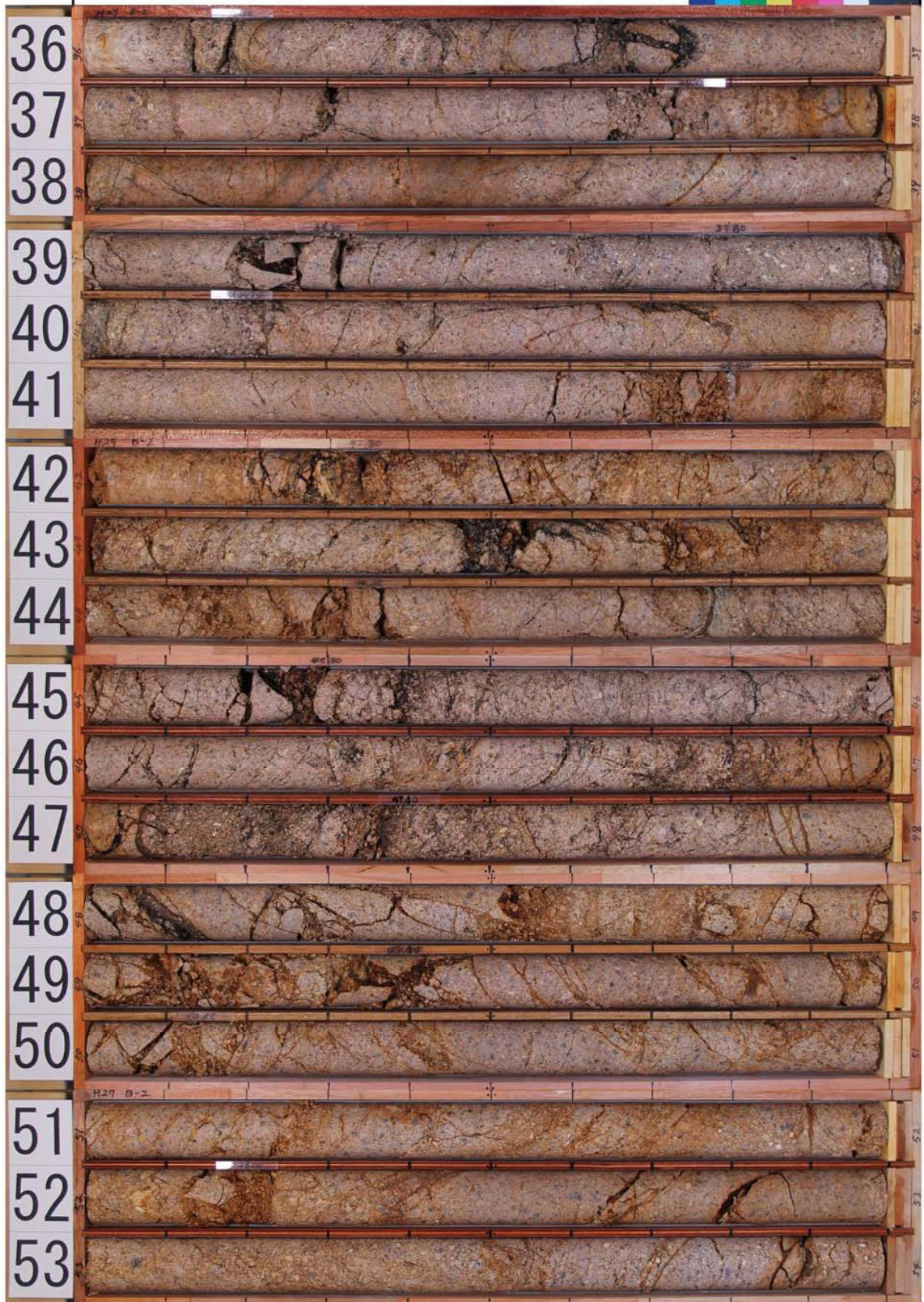
孔番 : H27-B-2

深度 18.00m ~ 36.00m



孔番 : H27-B-2

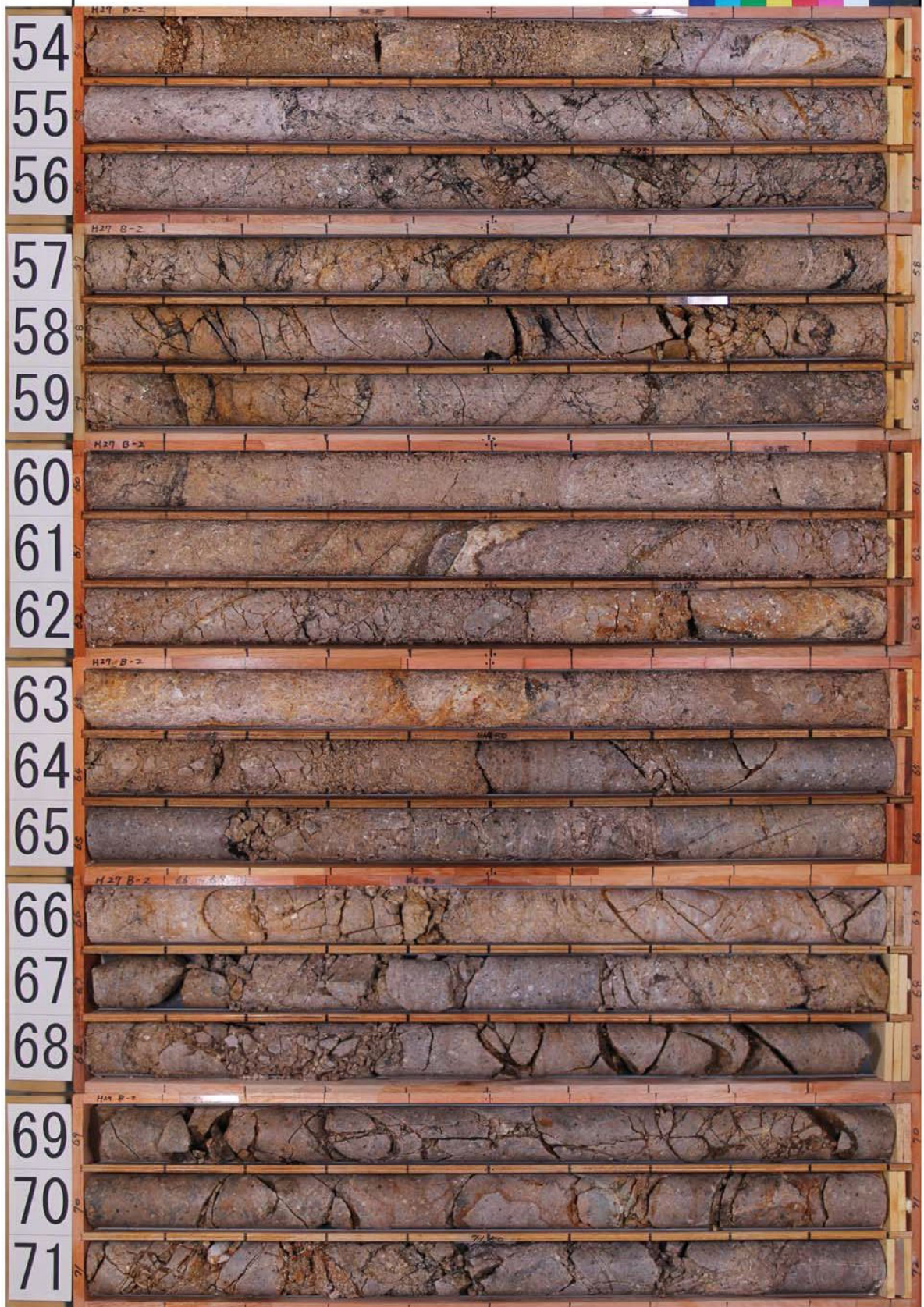
深度 36.00m ~ 54.00m





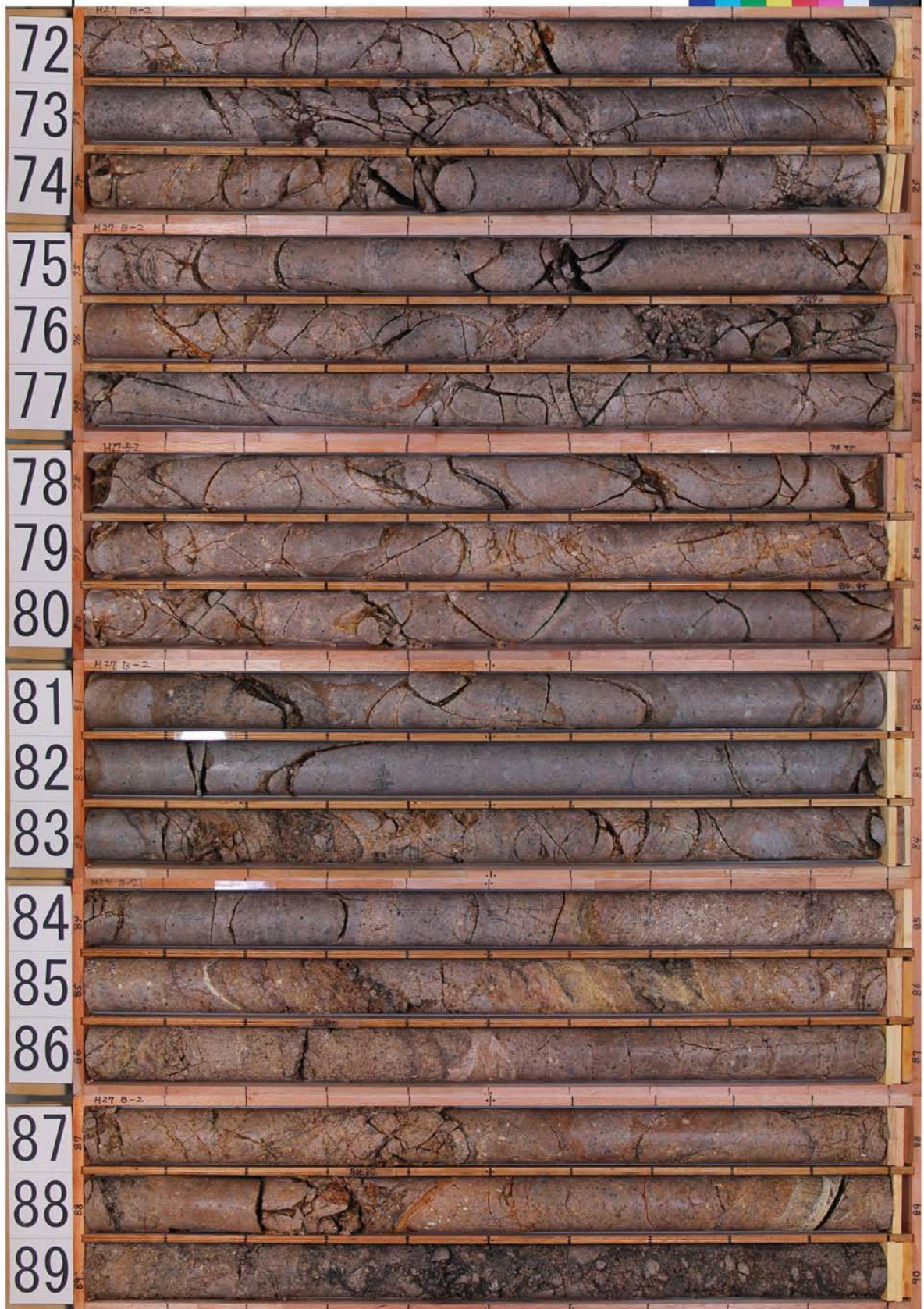
孔番 : H27-B-2

深度 54.00m ~ 72.00m



孔番 : H27-B-2

深度 72.00m ~ 90.00m



孔番 : H27-B-2

深度 90.00m ~ 108.00m



孔番 : H27-B-2

深度 108.00m ~ 126.00m



孔番 : H27-B-2

深度 126.00m ~ 144.00m



孔番 : H27-B-2

深度 144.00m ~ 160.00m



余白

H24-B14-2



余白



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・rpm)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)					
													0	10	20	30	40												50				
				盛土	明褐				5.23~5.29m: 有機物混じり砂を挟む。砂は中~粗粒砂でシルトや炭化物を含む。全体に若干有機質である。																								
		2.35	6.66		明褐				6.66~8.39m: 礫質砂 6.66~6.82m: 少量の粗粒砂を含む細粒砂。少量の未分解木片を含む。 6.82~8.08m: 細~粗粒砂からなり、7.43m以深ではシルトが混じる。全体に径2~5mmの細礫が混じる。細礫は角~亜角礫を主とする。礫種は花崗斑岩、アブライト、石英からなる。 6.82~7.65m: 上部はシルト質、下部は礫質となる。 7.10m付近まで径5~10mm程度の石英の細礫を多く含む。炭化物も礫状に含む。 7.10~8.08m: 径5~30mmの風化礫及び半風化礫を含む。 7.30m付近、未分解の植物片を含む。 7.70m付近、炭化物を含む。																								
		1.13	8.39		灰				8.08~8.39m: 砂は石英、長石主体で細~中粒砂。均質であるが、8.30m以深は若干の有機物を含む。																								
		0.82	8.83		黒褐				8.39~8.83m: 砂混じり有機質シルト 8.39~8.53m: 径1.5cmの花崗岩類の角礫を含む粗粒砂。8.40~8.45mにかけて縦方向に炭化木片を含む。 8.53~8.83m: 傾斜45~50°で有機物及び炭化木片を含む。所々、粗粒砂をブロック状に含む。																								
		0.31	9.54		黄				8.83m付近に粗粒砂の薄層を挟む。 8.83~9.54m: 有機物混じり砂 8.83~9.10m: 有機物混じり砂粗粒砂を主とし、石英細礫を5%未満含む。少量の炭化物を含む。 8.90~8.97m: 生木を含む。 9.10~9.26m: 有機物に富み、一部未分解の繊維が分布する。 9.13~9.15m間は極細粒砂を薄層状に挟む。下部は粒径がやや粗く、砂質シルト~シルト質砂状を呈する。 9.26~9.54m: 細粒砂を主とするが不均質で、径0.5~1cmの石英角礫を含み、粘土分を少量~中位で含む。また、炭化物片、未分解繊維も少量含む。 9.54~11.12m: 砂礫 径2~50mmの花崗斑岩礫が主体。基質は少量の粘土分を含む粗~中粒砂。 9.54~9.71mに径17cmの玉石を含む。																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)					
														0	10	20	30	40												50				
11	-0.80	11.12		砂礫	黄	赤褐				10.70~10.72m: 細粒砂を薄層状に挟む。傾斜45°程度。	0																							
					黄																													
12	-1.18	11.66		灰白	黄					11.12~12.04m: 礫混じり砂 (径2~5mmの石英の角礫を5~10%程度含む。砂は粗~細粒砂が主で、少量のシルト分を含む。 11.40~11.42m: 幅10mmの灰白色シルトを挟む。 11.53~11.55m: 幅15mmの灰白色シルトを挟む。 11.66~11.79m: スライム黄褐色のシルト混じり粗粒砂からなる。	0																							
					灰																													
13	-1.28	11.79		灰	黄					12.04~12.69m: 有機物混じり砂 (細~中砂を主とし、部分的に有機物混じりシルト質となる。有機物は傾斜20~30°を呈する。 12.13m付近、有機質シルトの薄層を挟む。 12.37~12.41m: 厚さ4cmの有機質シルトを挟む。 12.65~12.67m: 有機質シルトを薄層状に挟む。 12.69~13.09m: 有機物混じり砂質シルト (シルト~中粒砂からなり、全体に有機物が混じる。 12.70~12.73m: 有機質シルトを薄層状に挟む。 12.76~12.85m: 径2~4cmの花崗斑岩の垂角礫を含む。 12.85~13.09m: 砂混じり粘土で、下部は砂質粘土状である。 13.00m付近まで有機物を多く含むが、下部は少なくなる。 13.09~13.80m: シルト混じり砂 (細砂を主とする砂に全体にシルトが混じる。 13.17~13.60mはシルト~粘土分を含み、13.60~13.80mは均質な細~極細粒砂からなる。 13.40m付近、径5~7mmの石英礫を約5%含む。 13.80~16.24m: 砂礫 (径2~40mm (最大径330mm) の垂角~垂円礫を主とし、所々、径40~70mmの円~垂円礫を含む。礫は花崗斑岩が主体で、礫率50~70%程度。基質はシルト混じりの不均質な砂からなる。半クサリ礫と硬質礫の割合は同程度である。	0																							
					黒																													
14	-2.20	13.09		灰	黄						0																							
					褐																													
14	-2.70	13.80		砂礫	黄						0																							
					暗褐																													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N値~深度 ) 図					原位置試験 ( 孔内水平距離 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ペット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
													0	10	20	30	40												50					
		-4.42 ~ 16.24	砂礫	暗褐					15.08~15.17m: 花崗斑岩の玉石を含む。 15.42~15.50m: 風化花崗斑岩の玉石を含む。 15.70~16.00m: 花崗斑岩の岩塊を含む。 16.24m: 砂礫と花崗斑岩の境界は密着しており、傾斜45°程度を示す。																									
			花崗斑岩	褐灰					16.24~16.65m: 花崗斑岩斑晶は径3~8mmの石英・長石を主とし、径2~5mmの黒雲母を含む。石基は優白色である。 16.24~18.08m: 強風化・変質部で、全体に変質が認められ、コアは淡く赤色を帯びた灰白色を呈する。局所的にやや硬い所があるが、全体的に針貫入可能である。 16.24~16.94m: 傾斜30~50°の割れ目跡が1~3cm間隔で発達する。白色細粒物をフィルム状~幅1mmで挟む。下位に比べて原岩組織を残す。 16.94~18.04m: 割れ目が不明瞭となる。																									
			花崗斑岩	灰白	Eg		dg	δ	17.30~17.58m: 原岩組織が不明瞭で、指圧で砂混じりシルト状に崩せる。																									
			花崗斑岩	明褐灰	Dg		cg	γ	18.04~18.68m: 割れ目沿いの変質が著しく、硬質部を径5~20mmの礫状に残す。軟質部は針貫入可能である。傾斜50~70°及び90°程度の割れ目跡に白色細粒物をフィルム状~幅1mmで挟む。 18.33~18.37m: 強く変質する。上端40°、下端は不明瞭である。																									
			花崗斑岩	灰白	Eg		dg	δ	18.68~19.89m: 変質が著しく、割れ目と原岩組織が不明瞭である。全体に指圧で変形するほど軟質である。 19.00~19.25m、19.55~19.89m: 網目状の変質粘土は淡黄褐色を呈する。 19.19~19.50m: 傾斜75°で湾曲して幅1~2mmのシルト・砂混じり粘土脈が分布し、粘土脈に沿って幅2cmが灰白~淡黄褐色を呈する。																									
			花崗斑岩	灰白	Dg			3	19.89~20.29m: 2~10mm程度の間隔で網目状に割れ目が発達し、変質粘土をフィルム状~幅1mmで挟む。岩片はやや軟質である。																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																			
													0	10	20	30	40												50																																		
21			+	花崗斑岩	灰白	Dg	dg	δ	20.05~20.29m: 風化・変質作用により、全体に軟質化する。岩片状にやや硬質な部分を残すが針貫入可能である。20.05~20.09m間及び20.24~20.29m間は変質が著しく、礫混じりシルト状を呈する。下端は傾斜64°で下位と境される。 20.29~20.90m: 風化・変質の影響が弱くなるが、微細な割れ目が全体に発達し脆弱である。 20.48~20.84m: 傾斜24~68°で幅5~15mmの灰白色の砂混じり粘土を3条程度挟む。	0	D'																																																				
																																	22			+	明褐灰	Dg	cg	γ	21.00~21.20m: 全体に割れ目が発達し、細片状を呈する。21.10~21.15mは短柱状を呈する。	2																					
																																	24			+	明褐灰	Dg	cg	γ	22.42~22.63m: 微細な割れ目が発達し、割れ目沿いに劣化する。 22.63~23.71m: 割れ目が多く、径1~3cmの角礫状を呈する。	2																					
24			+	明褐灰	Dg	dg	δ	23.71~23.85m: 長さ3~9cmの短柱状コアからなる。23.71m付近の割れ目の面に黒色粘土を挟む。 23.85~24.48m: 径1~5cmの岩片状を呈する。岩片はやや硬質であるが、割れ目沿いに径0.2~1cm程度の細片化が見られる。 24.48~25.88m: 径0.5~3cm程度の礫状~細片状を呈し、割れ目として認識できない。コア採取時に細粒分を流失している。特に、25.30~25.77m間は、径5mm以下のものを流失している。岩片はやや硬質で、風化・変質の影響は少ない。	2																																																						

標 尺	標 高	深 度	柱 状	岩 種	色 調	硬 軟	コ ア 形 状	割 れ 目 の 状 態	風 化	記 事	コ ア 採 取 率 ← ( % ) 最大コア長 → cm R Q D L [ % ]	岩 級	孔 内 水 位 ( m ) 測 定 日 月	( 標準貫入 ) 試験					原 位 置 試 験 ( 孔 内 水 平 監 視 )	室 内 試 験	掘 進 日 月 日	掘 進 速 度 ( cm / 時 )	孔 径 ( mm ) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ル / ビ ッ ト	給 圧 ( kN · mPa )	回 転 数 ( rpm )	送 水 圧 ( MPa )	送 水 量 ( L / 分 )	排 水 量 ( L / 分 )																																																																																																							
														( N 値 ~ 深 度 ) 図																																																																																																																						
26				花崗斑岩	褐灰	Dg	v <sub>E</sub>	dg	2	25.88~26.62m: 土砂~礫状を呈する。岩片は径5~15mm程度のもものが多く、25.88~26.12m間は径5~50mmのものを主体とする。基質はシルト混じり中粗砂で、不規則にマンガンに連続されている。指圧で変形するほど軟質である。	D'		0	10	20	30	40	50																																																																																																																		
27			花崗斑岩		にぶい黄橙	Dg			3																									26.62~27.62m: 5~15mm間隔で網目状に割れ目が発達し、割れ目沿いは土砂~細片状を呈する。	CL'		0	10	20	30	40	50																																																																																										
28			花崗斑岩		にぶい黄橙	Cg	v <sub>E</sub>	cg	2																									27.28~27.62m: 上位に比べて割れ目沿いの岩質劣化は弱く、径1~3cmの岩片状を呈する。 27.47~27.62m: 傾斜60~65°の割れ目が1.5~3.5cm間隔で発達する。 27.62m: 傾斜65°で幅1~2mmの黄灰色砂混じりシルトを不連続に挟む。シルトの周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 27.62~27.97m: 網状に割れ目が密集し、コアはやや脆弱となる。 27.92~28.21m: 傾斜60~75°の密着割れ目が2~10mm間隔で発達するほか、傾斜20~25°の割れ目が12cm間隔で発達する。後者の割れ目はマンガン汚染を伴う。 28.21~28.50m: 2~10mm間隔で微細な割れ目が発達し、全体に劣化する。 28.36~28.45m: 傾斜30°程度の微細な割れ目が1~10mm間隔で発達する。 28.45~28.50m: 上端55°、下端50°で原岩組織が不明瞭となる。 ●28.50~28.66m: 破碎部 28.50~28.51m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 上端50°、下端50°。径5mm以下の岩片を10%程度含む。黄灰色を呈する。幅1~1.5mm。 28.51~28.53m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端50°で直線的に、下端40°で波打って連続。径10mm以下の岩片主体で岩片間に幅1~2mmの黄灰色粘土を伴う。にぶい黄橙色を呈する。幅23~30mm。 28.53~28.66m: 粘土混じり角礫状部 (Hj) 上端40°で波打って連続。下端は不明瞭。径5~20mmの岩片からなり、細粒部が分布する。にぶい黄橙色を呈する。幅120mm。 28.66~28.71m: 土砂状を呈する。 28.71~29.45m: 傾斜40°及び60°の割れ目が2~6cm間隔で発達。交錯し、岩片状を呈する。割れ目面にはしばしばマンガンを伴う。 29.16~29.45m: 風化・変質が進み、脆弱である。																																																																																																		
29			灰褐		Cg	v <sub>E</sub>	cg	2	29.45~29.91m: 原岩組織と割れ目は不明瞭となる。針貫入可能で指圧で容易に崩せる。 29.76~29.81m: 硬質部を礫状に含む																																																																															0	10	20	30	40	50																																							
			明褐灰		Dg			3	29.81~29.97m: マンガン汚染が拡がる。 29.91~30.21m: 傾斜40~55°の割れ目が0.2~2cm間隔で発達し、割れ目沿いに原岩組織が不明瞭になるところもある。コアは全体に褐色を帯びる。																																																																																																							0	10	20	30	40	50															
			明褐灰		Eg	v <sub>E</sub>	dg	4	29.91~30.21m: 傾斜40~55°の割れ目が0.2~2cm間隔で発達し、割れ目沿いに原岩組織が不明瞭になるところもある。コアは全体に褐色を帯びる。																																																																																																																											
			明褐灰	Cg	v <sub>E</sub>	cg	3	29.91~30.21m: 傾斜40~55°の割れ目が0.2~2cm間隔で発達し、割れ目沿いに原岩組織が不明瞭になるところもある。コアは全体に褐色を帯びる。				0	10	20	30	40	50																																																																																																																			
			明褐灰	Eg	v <sub>E</sub>	dg	4	29.91~30.21m: 傾斜40~55°の割れ目が0.2~2cm間隔で発達し、割れ目沿いに原岩組織が不明瞭になるところもある。コアは全体に褐色を帯びる。																													0	10	20	30	40	50																																																																																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入 ( ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図					原位試験 ( 孔内水平距離 )	室内試験	掘進 月日	掘進 速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コア チップ / ビット	給 圧 (kN / MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)																																																																																														
															0	10	20	30	40												50																																																																																													
31			+ +	花崗斑岩	明褐灰	Cg	Vg	cg	δ	3	30.13m: 傾斜30°で幅1mmの黄灰色砂混じり粘土を挟む。上端側に幅10~15mmの細片状部を伴う。 30.21~32.40m: 傾斜40~50°の割れ目が3~15cm間隔で発達し、割れ目沿いに黄褐色化、酸化汚染が認められる。 30.28~30.44m: 長さ16cmの柱状コアである。 30.62~30.72m: 傾斜40°程度の割れ目が3~10cm間隔で発達し、上下位と比べてやや岩質劣化する。	0 50 100 16 (16) 100 13 (13) 100 14 (14) 100 9 (9) 100 6 (6) 100	CL'																																																																																																															
32																																						31.55~31.93m: 傾斜40°と65°以上の密着割れ目が3~5cm間隔で交錯する。	CM'																																																																																					
33																																						32.40~32.67m: 傾斜50~60°の割れ目が1cm間隔で発達し、割れ目沿いに岩質劣化が進む。一部は原岩組織が不明瞭となる。 32.67m付近、傾斜40~50°の割れ目及び不規則な割れ目が1~3cm間隔で発達し、岩片状を呈する。割れ目沿いに岩質劣化が認められるが、岩片はやや硬質である。 32.91~33.01m: 不規則で網目状に割れ目が発達する。 33.01~35.14m: 傾斜50~60°の割れ目が3~6cm間隔で発達するほか、傾斜75°以上の高角度割れ目も見られる。一部割れ目沿いに細粒状を呈する。																																																																																						
34																																						33.72m: 傾斜50°の割れ目に黄灰色シルト質砂が付着する。コア採取時に大半を流失し、詳細は不明である。 34.20~34.46m: 割れ目間隔が狭くなり、径1~5cmの細片状を呈する。割れ目面には酸化汚染とともにマンガンの付着が認められる。カリ長石は黄褐~白濁する。 34.77m: 傾斜60°で幅5~12mmの黄褐~灰白色粘土混じり砂を挟む。砂は上端側の割れ目に流入する。砂を挟む割れ目の周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 34.93m: 割れ目沿いに岩質劣化する。岩片にはマンガンが付着する。割れ目のかみ合せは悪い。																																																																																						





標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																																																																																																																																																																																																											
															( ) 図 N値~深度																																																																																																																																																																																																																																																																																										
41			+	花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vg	cg	γ	2	40.25~40.31m: 変質部。上端40°, 下端50°で斜交する。石英粒の粗砂~細砂を含む灰白色粘土質砂状を呈する。上下位のコアは幅10~20mmでオリープ灰色を呈する。	0	CL'																																																																																																																																																																																																																																																																																												
																																		42			+	花崗斑岩	明褐灰	Bg	Vg	cg	γ	2	41.29~42.13m: 上下位と比べて風化・変質の程度が弱く、コア表面が滑らかである。傾斜30~50°の割れ目が1~10cm間隔で発達し、細片~短柱状を呈する。	5	CL'																																																																																																																																																																																																																																																										
																																																																			43			+	花崗斑岩	明褐灰	Bg	Vg	cg	γ	2	41.65~41.74m: 割れ目が密集し、コアはやや脆弱となる。	10	CL'																																																																																																																																																																																																																									
																																																																																																			44			+	花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vg	cg	γ	2	42.13~42.71m: 風化・変質の影響を強く受け、コアは軟質となる。特に、42.37~42.47m間は上下端傾斜45°の割れ目で埋まり、原岩組織や割れ目が消滅する。含まれる際に定向配列は見られない。	5	CL'																																																																																																																																																																																									
																																																																																																																																				45			+	花崗斑岩	明褐灰	Eg	Vg	cg	δ	3	43.00~43.51m: 不規則に岩芯まで風化・変質が進行し、コアは褐灰~オリープ灰色を帯びる。	5	CL'																																																																																																																																																								
																																																																																																																																																																				46			+	花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vg	cg	γ	2	43.51~43.81m: 強く風化・変質し、一部に硬さ「D」の岩片を残すが、多くは針貫入可能である。上層には傾斜50°で幅8~10mmの明赤灰色の砂混じりシルトが分布する。	4	CL'																																																																																																																								
																																																																																																																																																																																																				47			+	花崗斑岩	明褐灰	Eg	Vg	cg	δ	3	43.81~44.08m: 上位と比べて風化・変質の程度は弱い、傾斜80°以上の割れ目に沿って土砂化するほか、網状に割れ目が発達し、コアは脆弱である。	4	CL'																																																																																								
																																																																																																																																																																																																																																					48			+	花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vg	cg	γ	2	44.08~44.25m: 傾斜15°程度の割れ目が2~3cm間隔で発達するほか、傾斜80°以上の割れ目が分布し、細片状を呈する。割れ目沿いに多少岩質劣化するが、岩片は硬質である。下端の傾斜52°の割れ目には幅4mmで明褐色の砂・細砂混じり粘土を挟み、周囲には白雲母が晶出する。	4	CL'																																																							
																																																																																																																																																																																																																																																																							49			+	花崗斑岩	明褐灰	Eg	Vg	cg	δ	3	44.25~44.42m: 傾斜15°程度の割れ目が2~3cm間隔で発達するほか、傾斜80°以上の割れ目が分布し、細片状を呈する。割れ目沿いに多少岩質劣化するが、岩片は硬質である。下端の傾斜52°の割れ目には幅4mmで明褐色の砂・細砂混じり粘土を挟み、周囲には白雲母が晶出する。	4	CL'																					
																																																																																																																																																																																																																																																																																																									50
51			+	花崗斑岩	明褐灰	Eg	Vg	cg	δ	3	44.63~45.20m: 割れ目沿いの風化・変質が進行し、硬~細片状を呈する。岩片はやや硬質なものが多いが、一部は指圧で崩せるほど軟質となる。	4	CL'																																																																																																																																																																																																																																																																																												
																																	52			+	花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vg	cg	γ	2	45.20~45.41m: 傾斜15°程度の割れ目が2~3cm間隔で発達するほか、傾斜80°以上の割れ目が分布し、細片状を呈する。割れ目沿いに多少岩質劣化するが、岩片は硬質である。下端の傾斜52°の割れ目には幅4mmで明褐色の砂・細砂混じり粘土を挟み、周囲には白雲母が晶出する。	4	CL'																																																																																																																																																																																																																																																											



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← ( % ) 最大コア長 → cm R Q D └ [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( 試験 ) ( N 値 ~ 深度 ) 図		原位試験 ( 孔内水平距離 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
															( N 値 )	( 試験 )																		
51	28.65	50.50	+	花崗斑岩	褐灰	Cg	Vg	cg	γ	2	50.50~51.43m: コア欠如	0	CL'																					
52	29.31	51.43	+	コア欠如	褐灰	Dg	Vg	cg	γ	3	51.43~52.36m: 傾斜55~75° の割れ目が0.3~2cm間隔で発達し、細片~岩片状を呈する。全体にやや変質し、長石類は緑灰色化し、灰色を帯びる。 51.89~51.92m: 傾斜40° で幅17mmの緑灰色シルト・細礫混じり砂を挟む。	2	CL'																					
53			+	花崗斑岩	明褐灰	Eg	Vg	dg	δ	3	52.36~52.92m: 傾斜25~50° の割れ目が0.5~5cm間隔で発達する。 52.50~52.52m: 傾斜20° で幅10~20mmの暗灰色の緑混じり粘土を挟む。スライムの可能性が高い。 52.92~53.33m: 上位と比べて風化・変質が進み、軟質である。特に52.92~53.13m間は割れ目や原岩組織が不明瞭である。	5	CL'																					
54			+	花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vg	cg	γ	3	53.33~53.35m: 上下端15° 程度で幅20~25mmの変質部。上部は幅5~15mmの粘土質砂礫状、下部は幅5~15mmの砂・細礫混じり粘土を呈する。いずれも灰白色で、粘土状部は網目状に分布し、上端境界・下端境界は不明瞭である。原岩組織が認められ、せん断構造・変形構造は認められない。 53.35~53.82m: 傾斜25° 及び45° の割れ目が5~20mm間隔で交錯し、細片状を呈する。全体に変質し、ほぼ全ての割れ目にフィルム状の白色粘土を挟む。 53.82~54.48m: 傾斜30~50° 及び80° の密着割れ目が3~5cm間隔で発達する。割れ目沿いの酸化汚染は軽微である。	7	CL'																					
			+	花崗斑岩	褐灰	Bg	Vg	cg	β	2	54.48~55.40m: 上位に比べて割れ目沿いの褐色化が見られる。微細な割れ目も発達する。特に55.10~55.17mは微細な割れ目が密集し亀甲状を呈する。割れ目沿って風化が進む。	12	CM'																					
					明赤灰																													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D └─ [ %]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
													( N 値 ~ 深度 ) 図																					
		56	花崗斑岩	明赤灰	Cg	Vg	cg	γ	2	0 50 100	CL'		0	10	20	30	40	50																
													灰赤	Cg	IVg	bg	2	55.40~55.84m: 上下位に比べて風化・変質により、やや軟質となる。一部やや硬質の岩片が残留する。長石類は変質し、全体として赤色を帯びる。割れ目も上下位に比べて多くなり、亀甲状を呈する。全体にマンガン汚染が見られる。	5	10														
				赤灰	Bg	IIIg	IVg	2	55.84~56.62m: 上位に比べて風化による劣化は軽微となる。傾斜45°及び縦方向の割れ目が見られる。岩芯は新鮮部がみられるが、割れ目沿いは褐色化する。									15	19															
		57							明褐灰				Dg	Vg	cg	3	56.38~56.62m: 割れ目沿いの細片化が見られる。	3	4															
				赤灰	Cg	bg	2	56.62~57.42m: 上位と比べてやや変質を受け、割れ目及び割れ目周辺に暗緑色鉱物が見られる。									4	4																
		58						赤灰	Cg				bg	IVg	2	57.42~57.68m: 変質が進み、やや軟質となる。長石類の大半は綿泥石化する。	4	4																
				Dg	bg	IVg	2									57.68m: 割れ目沿いに最大幅2mmでマンガンが濃集し、周辺の微細な割れ目もマンガンに汚染される。57.69~58.00m: 上位に比べて変質は軽微となる。	12	12																
									Cg				Vg	cg	3	58.00~58.50m: 上下位に比べて岩質は良好である。割れ目沿い及び岩芯の酸化汚染はほとんど見られない。	12	12																
		59		Dg	Vg	cg	3									58.50~58.78m: 長石類は緑色鉱物に変質し、やや軟質である。傾斜30°程度の割れ目が主体である。	3	3																
								Cg	Vg				cg	2	58.78~59.05m: 上位と比べて変質は軽微であり、やや硬質である。	3	3																	
			Dg	Vg	cg	3	59.05~59.25m: 上下位に比べて変質し、やや軟質である。長石類は綿泥石化する。			3	3																							
							Cg	Vg	cg	2	59.25~59.55m: 上下位に比べて変質し、やや軟質である。長石類は綿泥石化する。	3	3																					
			Cg	Vg	cg	2					59.55~60.85m: 割れ目間隔は3cm以下で、微細な割れ目を伴い、亀甲状を呈する。59.90m付近までは、マンガン及び暗緑色鉱物を伴い、酸化汚染は軽微である。60.42~60.62mでは割れ目沿いに褐色化し、緑色鉱物脈が付着、または挟在する。全体に割れ目沿いの細片化が見られる。	3	3																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 → ( % ) 最大コア長 → cm R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N値~深度 ) 図					原位置試験 (孔内水平応力)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)						
													0	10	20	30	40												50					
61	35.83	60.65	[Pattern: Asterisks]	花崗斑岩	赤灰	Cg	γ	2	60.65~150.00m: アブライト	0	CL'																							
					明黄褐	Eg	δ	4	●60.85~61.12m: 破砕部 粘土混じり角礫状部 (Hj) 上端40°, 下端50° ともに直線的に連続。径5~30mmの硬さ「C」の角礫からなる。明黄褐~緑灰色を呈する。 61.12~63.47m: 傾斜30~40° 及び70° の割れ目と、これらに斜交する微細な割れ目が見られ、一部亀甲状を呈する。連続する割れ目は全て酸化汚染を受け、褐色化する。岩芯には新鮮部が見られる。割れ目沿いに細片化、一部で細粒化する。	3 (0)																								
62				[Pattern: Asterisks]	アブライト		Cg	γ	2		3 (0)																							
63			褐灰			Dg	δ		62.97~63.09m: 割れ目が密集し脆弱である。下端には傾斜45° で幅1~2mの緑灰色粘土を挟む。	5 (0)																								
64			[Pattern: Asterisks]	アブライト		Cg	γ		63.47~64.15m: 幅5~10cmの割れ目間隔で上位と比べて広い。割れ目沿いに細片化が認められる。	1 (20)																								
						Bg	β		64.15~64.82m: 傾斜40~50° の割れ目が3~10cm間隔で分布し、これらと平行もしくは斜交する潜在割れ目が発達する。潜在割れ目は容易には分離しないが、ハンマーの打診でやや鈍い音を発する。 64.26~64.51m: 上端45°, 下端60° 程度で境されて変質が進む。	10 (10)		CM'																						
						Wg	bg	3		64.82~65.32m: 傾斜30~45° と70° の割れ目が1~3cm間隔で発達する。低角度割れ目沿いに変質し、白雲母を伴う。			CL'																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ピット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
															( N 値 ~ 深度 ) 図																							
												0 50 100			0 10 20 30 40 50																							
66																																						
67																																						
68																																						
69																																						





標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																			
															0	10	20	30	40												50																		
			[Pattern]	明褐灰						γ	75.24~75.91m: 傾斜40°及び75°程度の割れ目が発達し、それらと斜交する潜在割れ目が分布する。割れ目及び潜在割れ目沿いに岩質劣化し、上下位と比べてやや脆弱である。 75.35m: 傾斜35°の割れ目沿いに幅8~20mmが土砂状を呈する。コア採取時に細粒分を一部流失する。	0	CM'																																				
76												Vg		Bg	IVg	bg		14	100																														
												Vg		Cg	IVg		14	100																															
												Vg			IVg																																		
												Vg			IVg																																		
												Vg			IVg																																		
77				IIIg		IVg																																											
				IIIg		IVg																																											
				IIIg		IVg																																											
78				アブライト	灰白						β	77.38m: 傾斜40°の割れ目に黄鉄鉱が濃集して晶出する。	20	CH'																																			
79				明褐灰							77.91~78.25m: 傾斜40~60°の他、不規則な高角度割れ目が発達し、細片状を呈する。割れ目沿いに細片化や脱色が認められる。 78.25~79.14m: 傾斜20~40°の割れ目が2~10cm間隔で発達する。割れ目は褐色化もしくは緑灰色化し、多くの割れ目に白雲母を伴う。割れ目沿いに細粒化し、一部流失しているため割れ目のかみ合せが悪い。	10	CL'																																				
			Vg											IVg																																			
			Vg											IVg																																			
			Vg											IVg																																			
			Vg											IVg																																			
			Vg											IVg																																			
				明褐灰							79.14~79.79m: 傾斜40~50°の割れ目が1~3cm間隔で発達する。割れ目沿いに脱色・細粒化が進む。コア採取時に細粒物を流失する。 79.42m: 傾斜20°で幅5~10mmの灰色の石英脈を挟む。 79.64~79.79m: 割れ目沿いの褐色化が目立つ。 79.77m: 傾斜40°、幅8mmで灰白~暗褐色のシルト質砂状に変質するが、硬質である。 79.79~82.13m: 傾斜40~50°の割れ目が3~8cm間隔で分布する。割れ目面の一部はオリブ灰色を呈し、白雲母を伴う。割れ目沿いに脱色する。	3	CL'																																				
		Vg	Cg									IVg																																					
		Vg	Dg									IVg																																					
				褐灰																																													
			Bg																																			IVg	bg										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 ( % ) 最大コア長 ( cm ) R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 ( m ) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図					原位置試験 ( 孔内水平距離 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 ( cm / 時 )	孔径 ( mm ) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 ( kN · rmp )	回 転 数 ( rpm )	送 水 圧 ( MPa )	送 水 量 ( L / 分 )	排 水 量 ( L / 分 )										
													0	10	20	30	40												50									
		81	* * * * *	ア プ ラ イ ト	褐 灰				80.63~81.47m: 傾斜70°以上の高角割れ目が発達する。割れ目は凹凸し、風化・変質、挟在物は認められない。	8	CM'																											
		82								81.25m: 傾斜40°の割れ目に幅1~2mで黄鉄鉱が付着する。		11																										
										81.40~81.76m: 傾斜30~50°の割れ目が交錯し、コアは一部薄片状を呈する。割れ目沿いに細片化し、コアのかみ合せが悪い。		23	CH'																									
										81.60m: 傾斜50°で幅2~5mmの石英脈を挟む。		57																										
												灰 白				81.99m: 傾斜45°で幅1mmの石英脈を挟む。		CL'																				
						82.13~83.59m: 上位と比べて割れ目が少ない。傾斜40~50°の割れ目が分布する。割れ目は鉄灰~オリーブ灰色を呈し、白雲母、黄鉄鉱の付着が認められる。割れ目及び潜在割れ目沿いに脱色する。	19																															
						82.33m, 82.36m: 傾斜40°で幅1~2mの石英脈を挟む。																																
						82.88~83.03m: 傾斜30~40°の割れ目が密集し、割れ目沿いの一部で細片化する。白雲母、黄鉄鉱の付着が目立つ。																																
						83.59~83.88m: 傾斜30~50°の割れ目が4~10cm間隔で発達し、不規則な高角度の潜在割れ目が分布する。上位と同様に割れ目沿いの脱色が認められるが、より明確に認識できる。	54																															
		84			* * * * *	ア プ ラ イ ト	褐 灰				83.88~84.54m: 上位より割れ目が少なく、傾斜45°の割れ目を主とする。	10																										
				84.16~84.45m: 傾斜70°以上の高角度割れ目が認められるが、連続性が悪い。																																		
				84.54m: 傾斜45°の割れ目面に柱状の石英の微晶が晶出する。																																		
								84.54~85.14m: 割れ目が多くなり、割れ目沿いに細片~細粒化する。																														
								84.83m: 傾斜40°の割れ目にフィルム~幅1mmの方解石脈を伴う。																														
								84.83~85.06m: 割れ目間隔1~2cm程度と密になり、上下位と比べて変質が進み、やや軟質となる。																														
								84.91~84.94m: 傾斜45°で幅25mm程度が変質し、灰白色粘土が網目状に分布する。																														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 cm	岩級区分	標準貫入試験 (N値~深度) 図		孔内水位 (m) / 測定月日	原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
														N	値													
86			[Pattern]	アプライト	褐灰	Bg	cg	γ	3	85.06~89.74m: 傾斜30~40° の割れ目が5~30cm間隔で分布し、長柱状を主体とする。	0 50 100	CL'																
										85.14~85.64m: 割れ目面の表質は認められない。																		
										85.28m: 傾斜35° で幅1.5mmの石英脈を挟む。																		
87			[Pattern]	アプライト	褐灰	Bg	cg	γ	3	85.59~86.28m: 傾斜60~70° の密着割れ目が発達し、それに沿って脱色する。一部は開口し、細片化を伴う。	0 50 100	CL'																
										85.96~87.52m: 傾斜80° 以上で湾曲する割れ目が複数分布する。割れ目沿いに細片化~細粒化する。86.58~87.00m間は岩質劣化部を伴う。																		
										86.50~86.58m: 高角度割れ目面に柱状の石英が晶出する。																		
88			[Pattern]	アプライト	褐灰	Bg	bg	β	2	87.61m以深、傾斜40~60° の割れ目が多くなる。	0 50 100	CH'																
										87.61~88.31m: 傾斜40~60° の割れ目や潜在割れ目が分布し、それらに沿って脱色する。割れ目面はオリブ灰色を帯びる。																		
										87.73m: 傾斜40° の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。																		
89			[Pattern]	アプライト	褐灰	Bg	cg	γ	3	88.22m: 傾斜43° の割れ目は暗オリブ灰色を呈し、柱状の石英が晶出する。	0 50 100	CH'																
										88.22~88.30m: 微細な有色鉱物を多く含み、コアは暗色を帯びる。																		
										88.90~89.09m: 傾斜45° 程度の割れ目が0.5~3cm間隔で発達し、一部割れ目沿いに細片化する。わずかに脱色が認められる。																		
89			[Pattern]	アプライト	褐灰	Bg	cg	γ	3	89.06m, 89.42m, 89.55m: 傾斜43~50° の割れ目に径0.3~0.5mmの石英が晶出する。割れ目面は緑灰色化する。	0 50 100	CH'																
										89.74~90.56m: 傾斜35~55° の割れ目が2~6cm間隔で発達し、コアは一部で細片状を呈する。																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)												
													( N値~深度 ) 図																											
										0 50 100			0 10 20 30 40 50																											
91							IVg		90.08~90.56m: 傾斜45°程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。																															
							Vg		90.44m: 傾斜45°で幅3~8mmの石英脈を挟む。																															
									91.08~91.13m: 細かい割れ目が発達し、変質も認められ、細礫状を呈する。																															
									91.13m: 傾斜40°の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。																															
									91.48~91.63m: 傾斜10~50°の割れ目が多く、主に岩片状~礫状を呈する。																															
									91.53~93.00m: 傾斜85~90°で幅5~10mmの石英脈が連続して分布する。																															
92							Bg	bg	92.13m: 傾斜40°の割れ目の一部に黄鉄鉱が晶出する。																															
93																																								
94									93.64m: 傾斜40°の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。																															
									94.10~94.63m: 傾斜10~45°程度の割れ目が多く、岩片状~礫状を呈する。																															
							Cg	Vg	cg																															
									94.24m: 傾斜45°で幅1~2mmの灰白色砂質粘土を挟む。																															
							Bg	IVg	bg																															
									94.34m, 94.37m: 傾斜40°の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。																															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験 ( N値~深度 ) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)	
															0	10	20	30	40												50
96			[Pattern]	褐灰	Bg	cg	IVg	bg	2		95.07~96.03m: 傾斜10~50° の割れ目が多く、岩片状~礫状を呈する。	0	CL'																		
											95.34~95.43m: 細かい割れ目が発達し、細礫状を呈する。																				
											95.36m: ほぼ鉛直な割れ目に幅1mmの灰白色粘土を挟む。																				
97			[Pattern]	明褐灰	Dg	cg	Vg	dg	3		96.38~96.54m: 傾斜45° 程度の割れ目が発達し、主に礫状を呈する。	5	CH'																		
											96.44~96.64m, 96.80~96.97m: 変質が認められ、やや軟質である。																				
											96.54~96.64m: 細かい割れ目が発達し、細礫状を呈する。																				
98			[Pattern]	褐灰	Bg	cg	Vg	cg	β		97.50~98.09m: 傾斜45~70° の割れ目が多く、岩片状~礫状を呈する。	10	CL'																		
											97.83~97.86m: 細かい割れ目が発達し、細礫状を呈する。																				
											98.28~100.40m: 不規則な割れ目が多く、岩片~礫状を呈する。																				
99			[Pattern]	明褐灰	Bg	cg	Vg	cg			99.61~99.66m: 細かい割れ目が多く、変質が認められ、やや軟質である。	9	CL'																		
											99.94m: 傾斜25° で幅5mmの橙色のかり長石が脈状に分布する。																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入 ( ) 試験 ( N値~深度 ) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) 掘進速度 (cm/時)	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
															( N )	( N )	( N )	( N )	( N )																
101			[Pattern]	明褐灰							100.40~100.52m: 細かい割れ目が発達し、変質を受け、やや軟質で、礫状~土砂状を呈する。	7 [9]																							
																															Bg Vg bg	2			
																															Dg VIg dg	3			
																															Bg IVg bg	2			
102			[Pattern]	明褐灰 アブライト							100.75~101.03m: 変質が明瞭で、やや軟質である。 100.90~101.03m: 細かい割れ目が発達し、ほぼ土砂状を呈する。	8 [9]																							
																															Dg Vg cg	3			
																															Dg VIg dg	3			
																															Cg Vg bg	2			
103			[Pattern]	褐灰							●101.47~101.52m: 破砕部 101.47~101.50m: 粘土質砂状部 (Hb) 傾斜25°で直線的に連続。下端に灰白色のフィルム状粘土を伴う。径2~5mmの岩片を含む。変質が進み、灰白色を呈する。幅30mm。 101.50~101.52m: 粘土混じり砂礫状部 (H1) 上端25°、下端20°で直線的に連続。径20mm以下の岩片主体。灰白~明褐色を呈する。幅20mm。 102.11~103.92m: 径1~3cm程度のかり長石の大型斑晶が目立つ。	8 [9]																							
																																		Eg VIg dg	4
																																		Vg	
																																		Bg IVg bg	2
104			[Pattern]	明褐灰							102.55~102.94m: 傾斜10~50°の割れ目が多く、岩片~細礫状を呈する。	8 [9]																							
																															Cg				
																															Dg	3			
																															Vg				
104			[Pattern]	褐灰							102.94~103.11m: 細かい割れ目が発達し、緑色に変質し、礫状~土砂状を呈する。一部灰白色粘土を脈状に伴う。 103.11~103.53m: 径0.5~10mm程度の灰色の長石の斑晶が目立つ。 103.11~103.93m: 傾斜20~60°の割れ目が多く、傾斜5~10°の潜在割れ目が発達する。全体に弱く変質する。	8 [9]																							
																																	Cg		
																																	Dg	3	
																																	Vg		
104			[Pattern]	明褐灰							103.93~104.61m: 潜在割れ目も少なく、短柱状コアを主とする。	11 [11]																							
																															Bg				
																															IVg				
																															Vg				
104			[Pattern]	褐灰							104.44~105.54m: 傾斜10~50°の割れ目が多く、岩片状を呈する。 104.47~104.65m: 径3~10mmの橙色のかり長石の斑晶が目立つ。	11 [11]																							
																															Bg				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ピット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
														( N )	( 値 )																			
						Bg	Vg	bg	2		0			0	10	20	30	40	50															
106				褐灰		Eg	Vg	dg	4	●105.54~105.61m: 破砕部 シルト混じり砂礫状部 (Hj) 上端45°, 下端45° ともに直線的に連続。径30mm以下の岩片主体で灰白色粘土が脈状に分布する。変質が著しく、オリブ灰色を呈する。 105.61~107.12m: 傾斜30~50°の割れ目が多く、主に岩片状~礫状を呈する。	7 10																							
						Bg	Vg	bg	2	106.22~106.34m: 傾斜55°の割れ目が卓越し、割れ目には白色鉱物が晶出し、割れ目周辺に変質が見られる。 106.48~106.49m: 傾斜15°, 傾斜50°の割れ目に幅3~6mmの暗緑灰色の粘土質砂を挟み、白色鉱物を伴う。	4 10																							
						Bg	Vg	cg	2	106.68~106.69m: 傾斜55°の割れ目に灰白色砂・細礫混じり粘土を挟む。 106.78~106.83m: 傾斜15°のドレイト脈を挟む。やや基質が粗粒で方解石の細脈が見られる。アブライトとの境界は明瞭である。アブライトよりは軟質である。高角度の割れ目にも貫入している。 106.78~106.80m: 傾斜50°のドレイトの変質部で、暗緑灰色の粘土質砂・細礫状を呈する。	4 10																							
107				アブライト		Dg	Vg	dg	β	3	106.91~106.92m: 不規則な形状のドレイト脈で、106.83mのドレイト脈と高角度割れ目の細脈で連続する。 107.12~107.29m: 傾斜45~90°の湾曲した割れ目が多く、角礫状を呈する。高角度の割れ目沿いに変質が進み、シルト質砂礫状を呈する。 107.29~107.45m: 砂・細礫状を呈し、灰白色粘土脈が網目状に分布する。 107.30~107.31m: 傾斜55°で幅3~9mmの暗灰色変質部で砂状を呈する。 幅1mm以下の暗灰色粘土を不連続に挟む。変質部に含まれる岩片に定向配列は見られない。暗灰色粘土は分岐し、黄鉄鉱を伴う。	3 10																						
				明褐灰		Bg	Vg	cg	2	107.45~108.11m: 多方向の割れ目が多く、角礫状を呈する。割れ目沿いに緑色変質する。 107.81~108.11m: 高角度の割れ目沿いに変質が進み、シルト質砂礫状を呈する。 108.29m: 傾斜57°で幅1~2mmの灰白色の方解石脈を挟む。 108.33~109.16m: 全体に変質を受け、緑灰~明緑灰色を呈する。原岩組織はやや不明瞭である。	3 10																							
108						Dg	Vg	cg	3																									
				明緑灰		Cg	Vg	cg	2	108.94m: 傾斜50°で幅0~8mmの方解石脈を挟む。	8 10																							
109						Eg	Vg	dg	4	●109.16~109.46m: 破砕部 (D-1破砕部) 109.16~109.18m: 細礫混じり粘土状部 (Hc-2) 傾斜75°。明緑灰色を呈する。幅2~10mm。 109.18~109.30m: 粘土質礫状部 (Hb) 傾斜75°で直線的に連続。径2~30mmの礫主体で細粒部が分布する。変質が著しく、明緑灰色を呈する。幅60mm。 109.30~109.32m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 上端75°, 下端80°。明緑灰色を呈する。幅10~20mm。 109.32~109.46m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端90°でやや波打って、下端60°で湾曲して連続。下端には幅1mmの白色粘土を伴う。径2~30mmの礫主体で細粒部が分布する。明緑灰色を呈する。幅60mm程度。 109.46~109.70m: 破砕部の下端側は変質を受け、にぶい橙色を呈する。 109.46~112.49m: 傾斜30~50°の割れ目が多く、岩片状~細礫状を呈する。 109.84m: 傾斜70°で幅1mmの白色粘土を挟む。	9 10																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ ノット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																															
															( N 値 ~ 深度 ) 図																																														
			[Pattern]	明褐灰		Cg	cg				110.12~110.78m: 傾斜30~50°の割れ目が密集し、細礫状を呈する。	0 50 100	CL'																																																
111											Dg																					Vg	4	110.80m, 110.85m: 傾斜50°で幅0~1mmの方解石脈を挟む。 110.95~111.16m: 変質が著しく、暗緑灰色を呈する。礫状~細礫状コアからなり、フィルム状の白色粘土が網目状に分布する。	CL'																										
											Cg																					bg	2																												
112											Dg																						3	111.78~111.86m: 傾斜45°程度の割れ目が密集し、細礫状を呈する。一部白色粘土が網目状に分布する。 111.80m: 傾斜45°で幅4~6mmの暗灰色砂混じり粘土を挟む。	CL'																										
											Cg																					cg	2																												
113											Dg																					Vg	3	112.28~112.46m: 傾斜40~50°の割れ目が数mm~2cm間隔で密集し、変質する。	β																										
				Bg	IVg	bg	2																																																						
114				Cg	Vg	cg	113.44~113.90m: 傾斜20~50°の割れ目が多く、岩片状~細礫状を呈する。 113.52~113.82m: 全体に弱く変質する。 113.58m, 113.64m: 傾斜46°, 48°の割れ目に幅1mmで黄鉄鉱が晶出する。	CM'																																																					
							Bg		IVg	bg	2	114.42~114.65m: 傾斜75°で幅10~13mmの石英脈を挟む。																																																	
									114.66~116.33m: 割れ目が多く、岩片~礫状を呈する。																																																				



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
														( N 値 ~ 深度 ) 図																			
										115.24~115.52m: 割れ目が密集し、主に礫状を呈する。				0	10	20	30	40	50														
					Bg																												
					Cg																												
					Vg																												
116											116.04m: 傾斜45°で幅1~2mmの灰色粘土を挟む。																						
										117.00~117.30m: 径5~10mmの橙色のかり長石、淡緑灰色の長石の斑晶が目立つ。																							
					IVg																												
117											117.37~117.58m: 割れ目が多く、岩片状~礫状を呈する。 117.48m: 傾斜45°、幅2~4mmで黄鉄鉱が晶出する。緑泥石、方解石を伴う。																						
					Vg	Bg	β	2																									
					IVg																												
118										117.95~125.10m: 割れ目が多く、岩片状~細礫状を呈する。																							
										118.83~118.92m: 主に細礫状を呈する。																							
					Vg																												
119											119.32m: 傾斜20°で幅1mmの灰白色粘土を挟む。																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 ( % ) 最大コア長 cm R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・rpm)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)					
													( N 値 ~ 深度 ) 図																				
									<p>120.30~122.00m: 傾斜10~40°と60~80°の割れ目が交差し、径1~3cmに岩片化する。</p> <p>120.50m: 傾斜72°で幅0.5mmの淡緑灰色粘土を挟む。</p>																								
121					Bg					<p>121.09~121.50m: 傾斜85~90°の割れ目に幅0.5mmの淡緑灰色粘土を挟む。</p>																							
122					Bg		Vg	Bg	β	2	<p>122.18~122.40m: 傾斜55~60°の割れ目沿いに一部軟質化する。白色化するが、変質粘土は伴わない。</p>																						
123										<p>122.82m: 傾斜55°で幅0.5mmの淡緑灰色粘土を挟む。割れ目の下端側が幅2cmで長さ1Dに軟質化する。</p> <p>122.99m: 傾斜60°で幅0.5mmの淡緑灰色粘土を挟む。</p>																							
124									<p>123.39m: 傾斜70°で幅6~10mmの粘土混じり礫状部を挟むが、礫の回転や移動はしていない。下端側の傾斜70°の割れ目面には幅0.5mm以下の暗緑色粘土と黄鉄鉱が晶出する。また、傾斜70°の割れ目とほぼ直交する幅20mmの岩片状部が分布し、下端側の割れ目面の一部に幅0.5mm以下の暗緑色粘土と若干の黄鉄鉱が晶出する。</p>																								
									<p>124.59~124.89m: 互いに直交する傾斜約45°の割れ目が分布し、径1~3cmの岩片状を呈する。脱色により白色化した低密着割れ目から分離・岩片化したものと推定される。</p>																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	変質	記号	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └─ [ %]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
														( N 値 ~ 深度 ) 図	( N 値 )																	
			[Pattern: Small asterisks]	褐灰		Vg					CL'			0	10																	
126				[Pattern: Small asterisks]	灰赤		bg					CM'			0	10																
127			[Pattern: Small asterisks]	灰褐	アブライト	Bg			β 2		CL'			0	10																	
128			[Pattern: Small asterisks]	褐灰		bg					CL'			0	10																	
129			[Pattern: Small asterisks]	褐灰		Bg					CL'			0	10																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
														( N 値 ~ 深度 ) 図																	
131	85.57	131.00	[Pattern]	アブライト	褐灰	Bg Vg	cg β 2			130.16m: 傾斜35°の割れ目の一部が褐色に風化するが、劣化は伴わない。130.16m以深では、径2~3mmの長石の一部が白濁化する。 130.50~130.54m: 傾斜45°の割れ目沿いに暗緑色化する。粘土化はないが、幅1~3mmの石英脈を伴う。	0 50 100 5 (0) 100 CL'			0 10 20 30 40 50																	
				コア欠如	灰褐						131.00~132.00m: コア欠如																				
132	86.28	132.00	[Pattern]	アブライト	灰褐	Bg Vg	bg β 2			132.00~133.46m: 割れ目と低密着割れ目が1~3cm程度の間隔で密に分布し、径1~3cm程度に岩片化した部分を多く含む。変質と風化による劣化はないが、133.46mの傾斜10°の割れ目には幅1mm程度の暗緑色粘土を挟む。 132.00~132.65mと133.10~133.30mは、径1~2cmの岩片状を呈する。	0 50 100 3 (0) 100 CL'																				
133				コア欠如							133.57~134.00m: 割れ目沿いに長さ5mm前後の繊維状を呈する部分が多い。隙に粘土は付着しない。	0 50 100 5 (0) 100 CL'																			
134	87.69	134.00		コア欠如						134.00~135.00m: コア欠如	0 50 100 4 (0) 100 CL'																				
	88.40	135.00																													



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
													(N)	値																				
		141	[Pattern]	灰褐		Bg	Vg	β	140.04~140.33m: 傾斜5~30°の微細な割れ目が発達する。一部硬質部が残存するが、上下位に比べてやや軟質である。	5	CL'																							
		142							Dg	3																					141.71~142.00m: 傾斜10~30°の割れ目が発達し、細片~細粒化する。岩芯の一部はやや硬質であるが、全体にやや軟質となる。	3		
		143							IVg	Bg																					Vg	β	142.00~142.48m: 上下位に比べて割れ目沿いの劣化は軽微であるが、割れ目沿いに細片化する。	6
		143							IVg																								2	142.48~143.53m: 割れ目沿いが細片~細粒化し、特に、142.85~143.03m、143.33~143.53mは割れ目が密集する。粘土状部は挟まない。
		144							IVg	Bg																					Vg	β		143.53~145.46m: 上位に比べて劣化は軽微であり、割れ目は少なくなる。割れ目沿いの細片化、細粒化も軽微となる。傾斜20~30°の割れ目が卓越する。
		144	IVg	2	11																													



孔番 B14-2孔

深度 0.00m ~ 18.00m

孔口標高 7.06m





孔番 B14-2 孔

深度 18.00m ~ 36.00m

孔口標高 7.06m



孔番 B14-2 孔

深度 36.00m ~ 54.00m

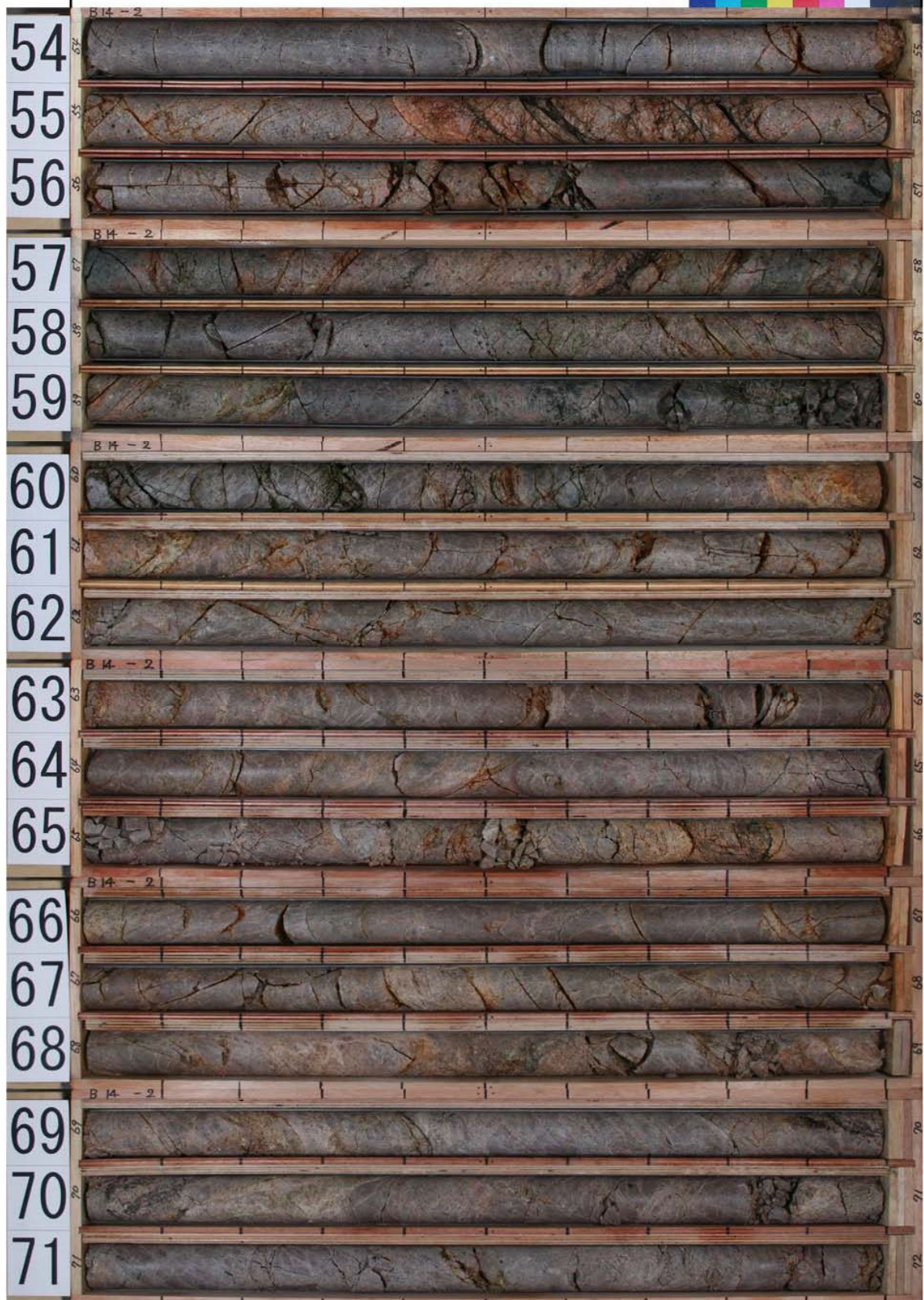
孔口標高 7.06m



孔番 B14-2 孔

深度 54.00m ~ 72.00m

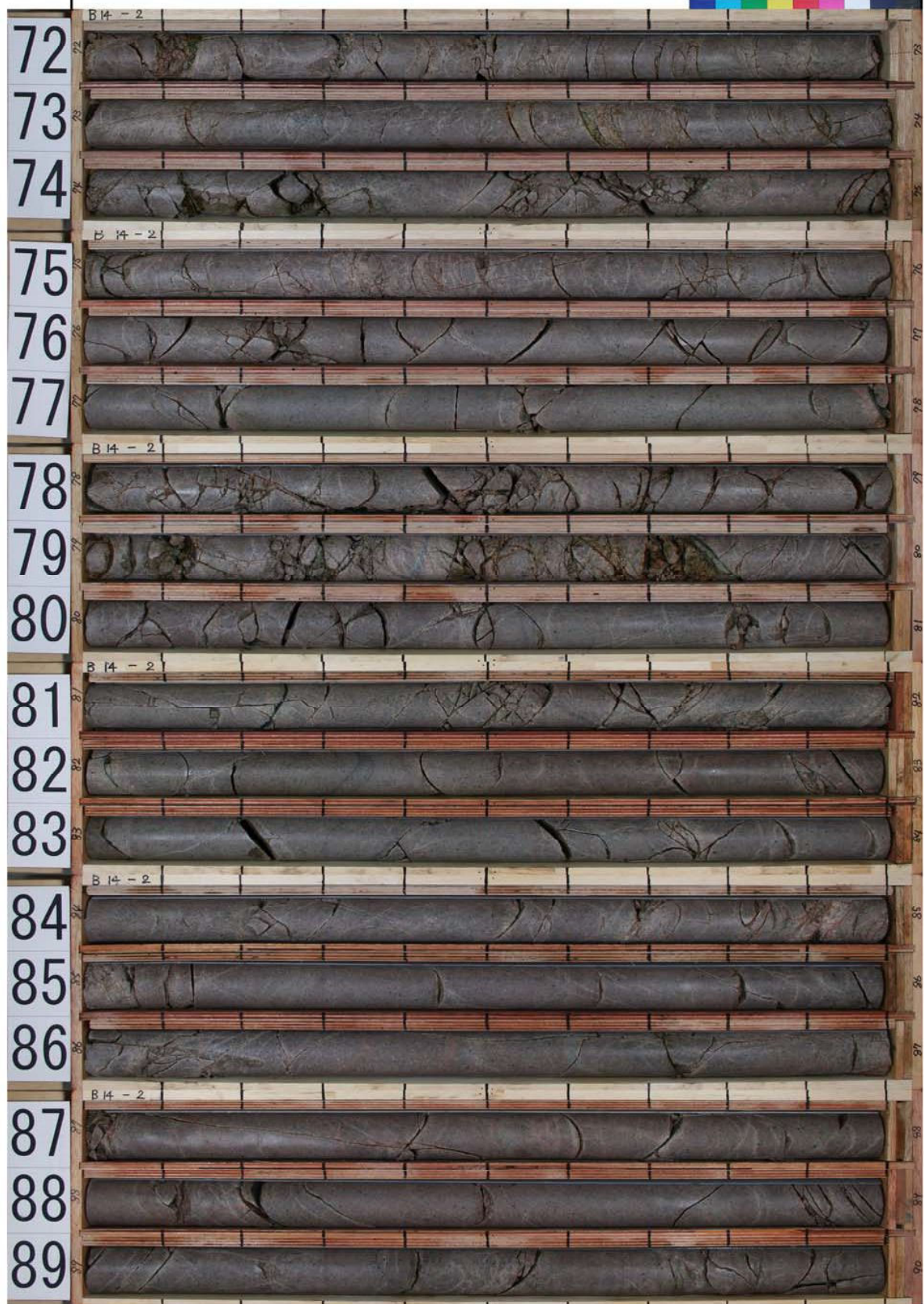
孔口標高 7.06m



孔番 B14-2 孔

深度 72.00m ~ 90.00m

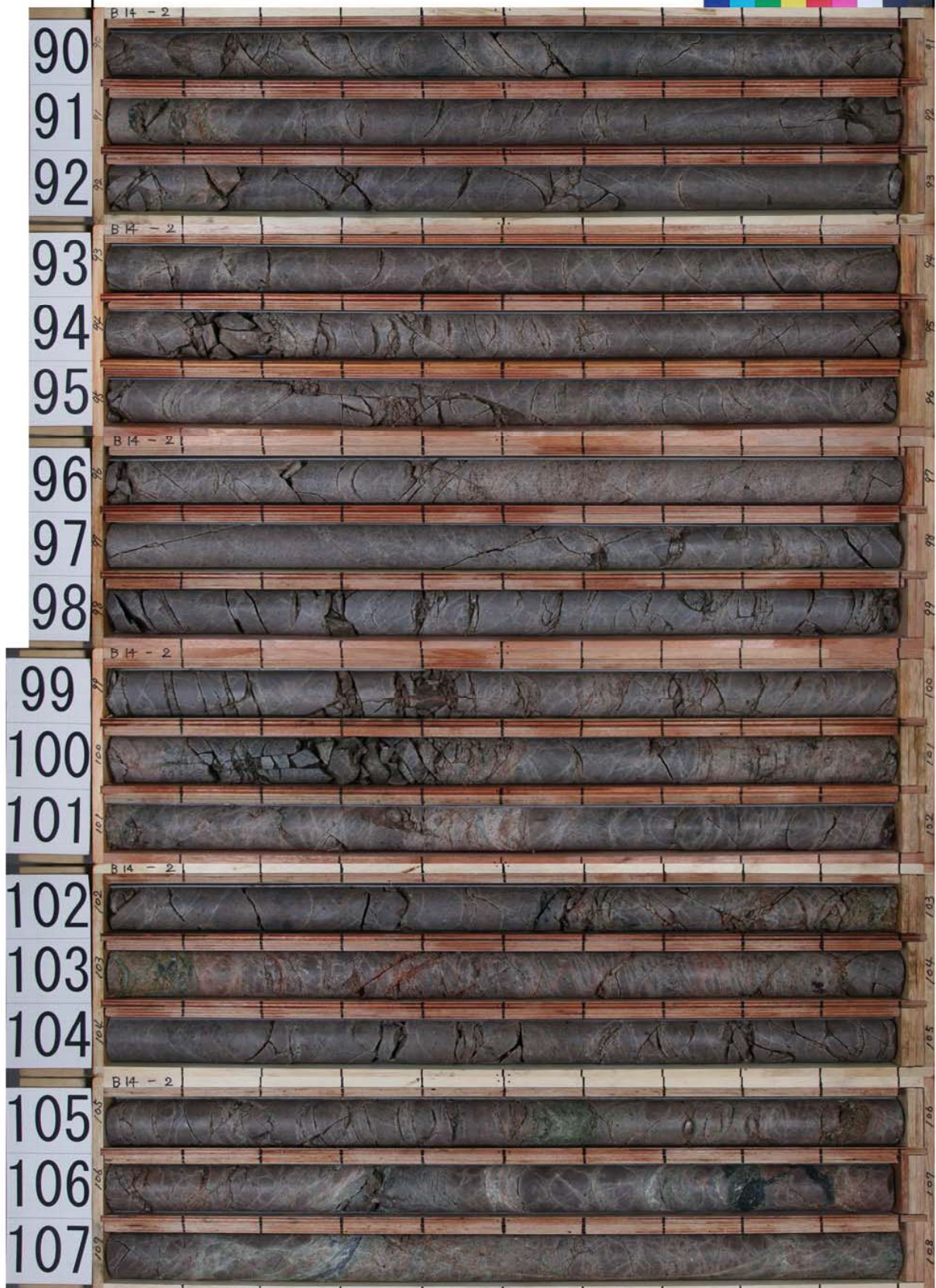
孔口標高 7.06m



孔番 B14-2 孔

深度 90.00m ~ 108.00m

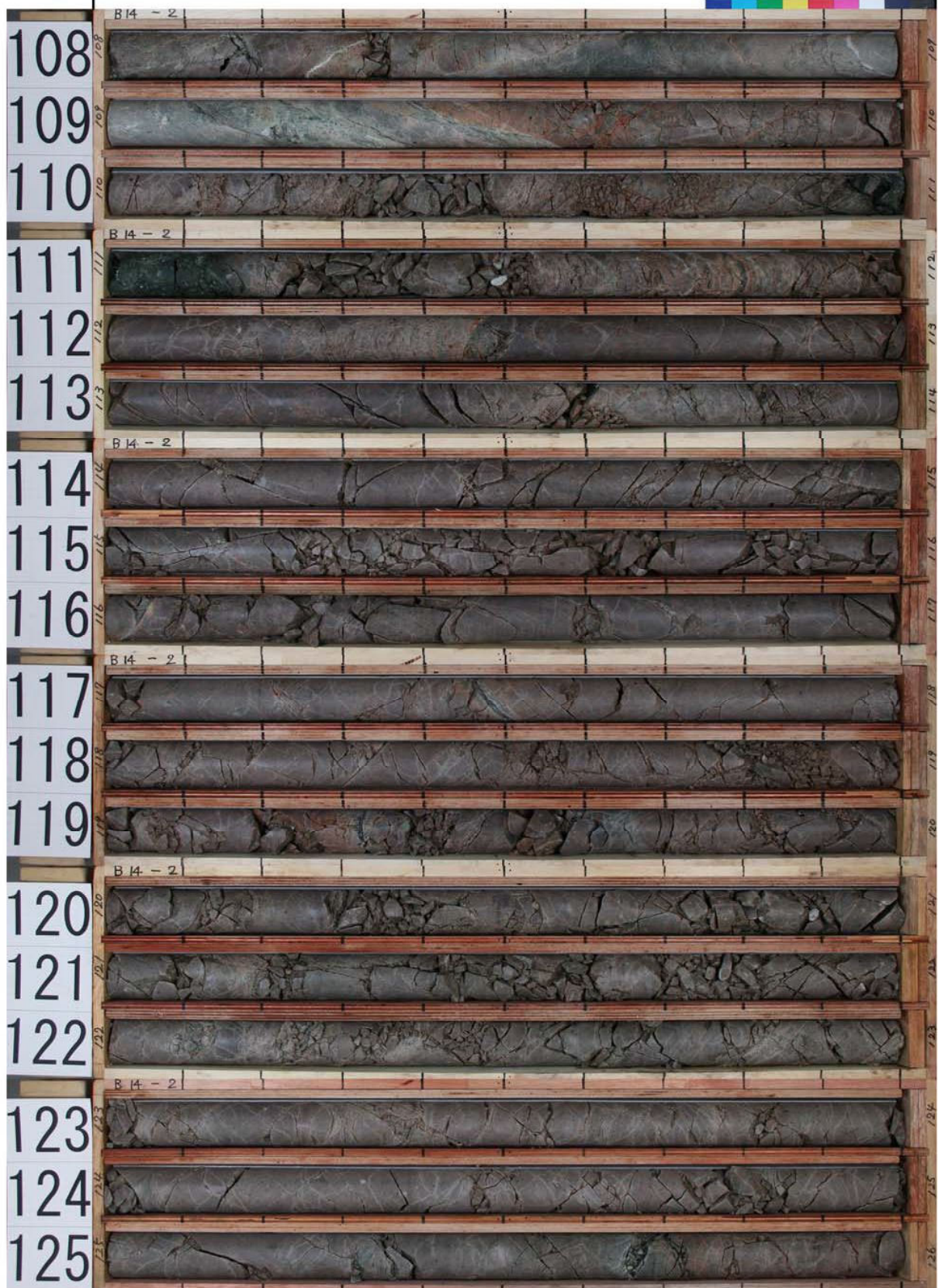
孔口標高 7.06m



孔番 B14-2 孔

深度 108.00m ~ 126.00m

孔口標高 7.06m



孔番 B14-2 孔

深度 126.00m ~ 144.00m

孔口標高 7.06m



孔番 B14-2 孔

深度 144.00m ~ 150.00m

孔口標高 7.06m





余白

H29—ReB14—2

余白



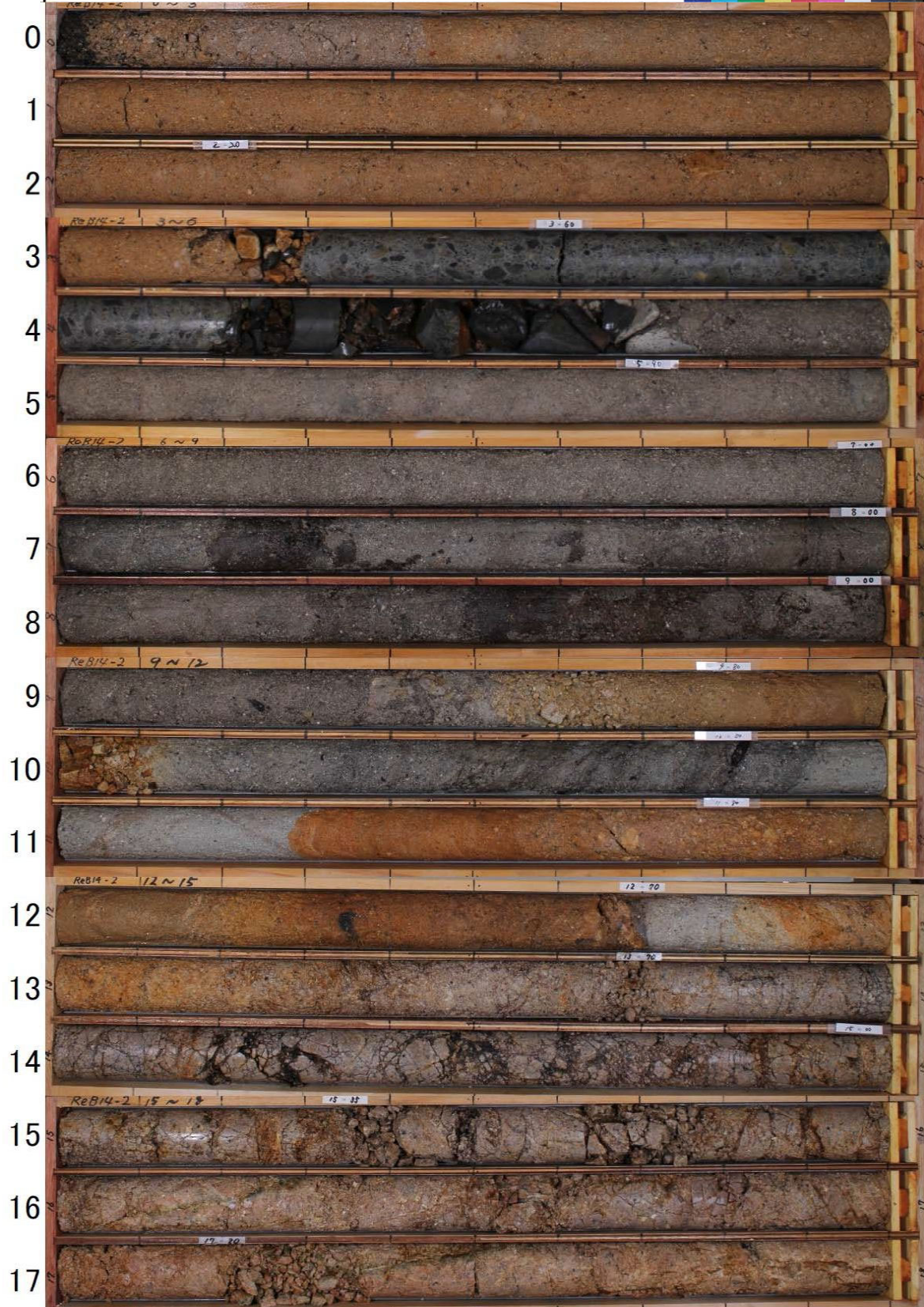


標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	岩級区分	標準貫入試験 (N値~深度) 図		孔内水位 (m) / 測定月日	原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
													0	50													
61				花崗斑岩	灰オリブ	IVg	bg	β	3	60.21~60.25m: 緑色に変質し、やや軟質である。下端に幅0.5~4mm程度の暗灰色粘土を伴う。	CL'																
62						IVg	bg		2																		
63						IVg	bg		2																		
64		37.92	63.62			IVg	cg		3	63.45m: 傾斜85°で幅1mm以下の石英脈を挟む。	CM'																
65						IVg	cg		3	63.62~115.00m: アブライト径1~5mm程度の石英、長石、黒雲母の斑晶を少量含む。																	
66						IVg	cg		2	63.62~63.64m: 幅15mm程度で灰白色粘土混じり細粒状を呈する。上端50°、下端55°。やや軟質。	CL'																
67						IVg	cg		3	63.75~63.81m: 灰白色粘土混じり細粒状を呈する。境界不明瞭。やや軟質。																	
68						IVg	cg		3	63.86~63.98m: 黄灰色粘土混じり粒状を呈する。上端35~40°、下端は不明瞭。やや硬質。原岩組織は残留する。																	
69						IVg	cg		2	64.10~65.20m: 変質し、所々、灰白色粘土が網目状に分布する。やや硬質。	CM'																
70						IVg	cg		3	65.00~65.01m: 幅10mm以下の隙混じり灰白色粘土を挟む。軟質。																	
71						IVg	cg		3	66.02~66.06m: 細片状を呈するが、原岩組織は明瞭に認められる。やや硬質。																	
72						IVg	cg		2	66.20~66.51m: 灰白色粘土混じり細片状を呈する。境界不明瞭。軟質。																	
73						IVg	cg		2	66.92~66.96m、67.37m: 傾斜30~45°程度でマンガン汚染濃染部を伴う。																	
74						IVg	cg		2	67.87~67.95m: 細片状を呈する。下端に傾斜60°で幅4mm以下の軟質な灰白色粘土を不連続に伴う。	CL'																
75						IVg	cg		3	69.22~69.28m: 細片状を呈するが原岩組織は明瞭に認められる。																	
76						IVg	cg		2	70.86~75.74m: 所々、割れ目が発達し、灰白色粘土が網目状に分布する。原岩組織は明瞭に認められる。																	
77						IVg	cg		2	75.50m: 傾斜60°で幅2mmの石英脈を挟む。																	
78						IVg	cg		2	76.36~78.11m: 全体に緑色を帯びる。	CM'																
79						IVg	cg		3	77.95~78.02m: 緑灰色粘土混じり細片状を呈する。上端50°、下端40°。やや硬質。原岩組織は残留する。																	
80						IVg	cg		β	78.50~99.21m: 全体に割れ目が少なく、柱状コアからなる。																	
81						IVg	cg		β	80.06~81.50m: 傾斜65~70°で幅1~5mm程度の石英脈を5条挟む。																	
82						IVg	cg		β																		
83						IVg	cg		β																		
84						IVg	cg		β	82.91m: 傾斜60°で幅2~3mmの石英脈を挟む。																	
85						IVg	cg		β	83.00m: 傾斜35°で幅2~8mm程度の細粒混じり暗灰色粘土を挟む。軟質。																	
86						IVg	cg		β	83.70~84.14m: 傾斜20~55°で幅1~7mm程度の石英脈を4条挟む。																	
87						IVg	cg		β	85.27~85.32m: 細片状を呈する。上端側には灰白色粘土を伴う。上端40°、下端35°。やや硬質。	CH'																
88						IVg	cg		β	87.02m: 傾斜40°で幅1mm以下の石英脈を挟む。																	
89						IVg	cg		β	88.46~89.04m: 局所的に傾斜30~50°程度の割れ目が密集する。																	
90						IVg	cg		β	89.56m: 傾斜43°で幅3~5mm程度の砂~細粒混じり暗緑灰色粘土を挟む。軟質。																	
91						IVg	cg		β	90.09m、90.12m: 傾斜65°で幅1~3mmの石英脈を挟む。その間は赤色化を呈する。																	
92						IVg	cg		β	90.51m: 傾斜35°の割れ目に沿って幅2~5mm程度で緑色化している。																	
93						IVg	cg		β	92.83~93.14m: 細片状を呈する。上端63°、下端55°。上端には幅1~2mm程度の軟質暗緑灰色粘土を伴う。	CM'																
94						IVg	cg		β																		



孔番 : H29-ReB14-2

深度 : 0.00m ~ 18.00m





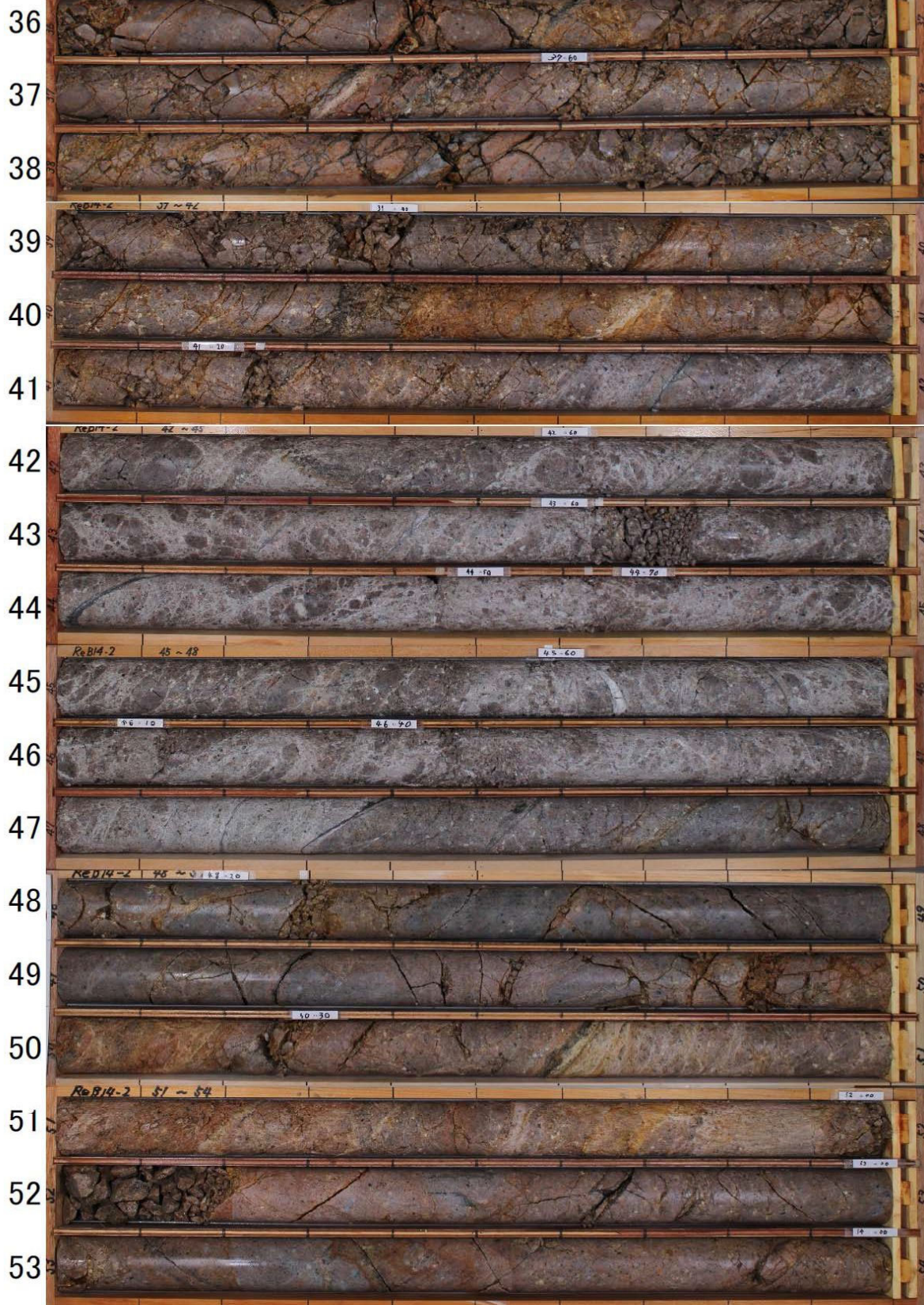
孔番 : H29-ReB14-2

深度 : 18.00m ~ 36.00m



孔番 : H29-ReB14-2

深度 : 36.00m ~ 54.00m



孔番 : H29-ReB14-2

深度 : 54.00m ~ 72.00m



孔番 : H29-ReB14-2

深度 : 72.00m ~ 90.00m



孔番 : H29-ReB14-2

深度 : 90.00m ~ 108.00m



孔番 : H29-ReB14-2

深度 : 108.00m ~ 115.00m

108

109

110

111

112

113

114



余白

H24-B14-1



余白





標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
														N	値																
11			花崗斑岩	明褐灰		IVg	cg	γ		10.00~10.04m付近は網目状に割れ目が分布し、一部マサ化する。 10.21~10.23m：割れ目沿いがマサ状~礫状となる。変質を受け、コアは軟質である。 10.82m付近の傾斜30°の割れ目沿いが幅5mm程度でマサ状を呈する。 10.87~11.06m：コアはやや硬い。	CL'								7/30												
12				淡橙		Dg			3	11.42m付近の傾斜15°の割れ目に幅5mmの褐色充填物を伴う。 11.47~13.38m：傾斜45°と60°の割れ目の他、微細な割れ目も発達する。全体に変質し、割れ目が不明瞭になる。 11.47mの傾斜25°、11.52mの傾斜7°の割れ目に幅1~4mmの褐色粘土を挟む。 11.87m、11.90m：傾斜40°の割れ目にマンガン鉱染が見られる。 12.08~12.10m：土砂状を呈する。	D'										95		ダブルコアチューブ / タイヤモンゴロビット 115 / ケーシング	80.0	100	0.1					
13						IVg		γ	2	13.38~14.33m：傾斜約30°と60°の割れ目が交差し、部分的に岩片状コアとなる。ハンマーの打撃で鈍い金属音を発する。 13.38m：傾斜40°の割れ目に幅1.5mm程度の黄褐色シルトを挟む。 13.38~13.54m：コアの表面は粗く軟質である。 13.54~13.66m：岩片状を呈する。																					
14						VIg		δ	3																						
						Cg	IVg				14.24~14.27m：上端27°、下端15°で幅30mmの隙混じり砂質シルト状を呈する。軟質で指が貫入する。 14.33~14.55m：割れ目は一部黒色化し、微細な割れ目が分布する。 14.55~15.71m：コアの硬軟を繰り返す。硬質部は割れ目が少なく、コア表面も滑らかである。 14.64m：傾斜75°の割れ目に幅10~20mmの灰色の砂を挟む。	CL'																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)																																																																																																																																																																																																														
															0	10	20	30	40												50																																																																																																																																																																																																													
16			+	花崗斑岩	明褐色	淡橙	Cg	IVg	γ	2		15.23~15.26m: 傾斜35°と15°の割れ目間が褐色の土砂状を呈する。	0																																																																																																																																																																																																																															
																																	17			+	明褐色	淡橙	Dg	Vg	δ	3	15.71~18.50m: 傾斜15°と45°程度の割れ目が密集する部分と粗になる部分が交互に分布する。全体に変質が進み、コアはやや脆い。 15.78~16.05m, 16.77~16.98m: 主に低角度の密着割れ目が密集する。割れ目面にマンガン鉱染が見られる。	1	120	100																																																																																																																																																																																														
																																																																			18			+	明褐色	淡橙	Cg	Vg	cg		16.21~16.73m間に5本の傾斜10~15°の同系統の割れ目が分布する。一部の割れ目には幅0.1~0.5mmのマンガン鉱染が見られる。	10	10	100																																																																																																																																																												
																																																																																																				19			+	明褐色	淡橙	Dg	Vg	δ	3	16.86m, 16.90m: 傾斜70~75°で幅1mmの石英脈を挟む。 17.08m: 傾斜35°の割れ目に幅0.5mmのマンガン鉱染が見られる。 17.24~17.80m: 傾斜20~30°の同系統の割れ目が分布する。一部の割れ目には酸化汚染、マンガン鉱染が見られる。	14	10	100	CL																																																																																																																										
																																																																																																																																							19			+	明褐色	淡橙	Eg	Vg	dg	δ	18.08m: 傾斜60°の割れ目に幅1mmのマンガンを挟む。 18.50~18.81m: 風化して軟質化している。 18.68m: 傾斜40°の割れ目に幅0.5~1mmの黒褐色砂を不連続に挟む。	18	10	100																																																																																								
																																																																																																																																																																									19			+	明褐色	淡橙	Cg	IIIg	bg	γ	2	18.98m: 傾斜60°で幅1mmの石英脈を挟む。 19.00~22.11m: 傾斜10~30°の割れ目が0.5~3cm間隔で発達し、礫状~岩片状コアからなる。 19.11~19.12m, 19.21~19.26m: 土砂状を呈する。 19.14m: 傾斜65°で幅3~4mmの石英脈を挟む。 19.32m: 傾斜20°で幅10mmの黒褐色砂を挟む。 19.53m: 傾斜35°で幅1mmの石英脈を挟む。	15	10	100																																																					
																																																																																																																																																																																																												19			+	明褐色	淡橙	Dg	Vg	cg	δ	3	19.85~20.07m: 傾斜15~25°程度の同系統の割れ目が密集する。一部の割れ目にはマンガン鉱染を伴う。	15	10	100																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入 ( ) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
															( N 値 ~ 深度 ) 図																
21			花崗斑岩	明褐灰	Dg Vg	δ	3	20.18m: 傾斜10°で幅2mmの軟質な褐色粘土を挟む。割れ目に沿って幅1~10mmがオリープ灰色を呈する。	CL'	0	50	100																			
					Cg IIIg	γ	2	20.36~20.49m: コアはやや硬く、割れ目は褐色化するが、密着する。																							
					Dg Vg	δ	3	20.65~20.76m: 傾斜10°と65°の3本の割れ目に幅1~4mmの灰色粘土を挟む。																							
					IVg	2	21.00~21.87m: コアはやや硬いが、傾斜10~30°の割れ目が発達し、高角度の割れ目と交差して岩片状を呈する。																								
					Cg																										
					Vg																										
				Dg	γ	21.63~21.65m: 傾斜10°の割れ目沿いにマサ化する。割れ目は褐~黒色化する。																									
				IVg																											
				Vg																											
22				橙	明褐灰	Cg	3	21.63~22.57m: 破砕部 ●21.63~22.57m: 破砕部 21.63~22.57m: 岩片状部(Hj) 上端10°で波打つ、下端22°で直線的。明褐灰~橙色を呈する。	CM'	0	50	100																			
						IVg																									
						IIIg																									
			IVg		δ	22.26~22.41m: 傾斜60°と20°の割れ目は岩片状コアからなる。22.41mの傾斜20°の割れ目に褐色のフィルム状の細粒部を挟む。																									
			Dg																												
			Vg																												
23			明褐灰	Cg	2	22.26~22.66m: 0.5cm間隔で傾斜10~30°の割れ目が発達し、全体に風化が進む。 コア表面は粗い。22.41m以深は傾斜20°程度の割れ目が密集し、マンガン鉱染が見られる。	CL'	0	50	100																					
				IVg																											
				Bg																											
24			にふい橙	明褐灰	Cg	3	23.61~23.87m: 割れ目は褐色化するが、密着する。	CM'	0	50	100																				
					IIIg																										
				Vg	δ	24.10~24.70m: 傾斜30~70°の割れ目及び網状割れ目が発達し、割れ目に褐色粘土を挟む。 24.11m: 傾斜15°の割れ目沿いはマサ化している。																									
				IVg																											
			Dg	γ	24.10m付近、割れ目に傾斜35°、幅5~15mmのシルトを挟む。 24.28m: 傾斜60°の割れ目に幅2mmの褐色粘土を挟む。																										
			Cg																												
			明褐灰	IVg	2	24.70~25.00m: 短柱状コア。割れ目が発達し、面は褐色化。傾斜80°程度の鉛直割れ目が発達。 24.80m: 傾斜35°の割れ目沿いが褐~灰色を呈する。	CL'	0	50	100																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験 ( N値~深度 ) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ ノズル	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																					
															0	10	20	30	40												50																																				
26			+	明褐灰	Cg	IVg	γ	2			25.00~25.32m: 割れ目の面はマンガン鉱染で黒色化し、砂状の充填物を挟む。	0	CL'																																																						
											Dg																							Vg	δ	3	25.32~25.75m: 軟質。傾斜約70° 割れ目が1cm間隔で発達。一部の割れ目沿いに石英細脈が貫入。マンガン鉱染が網目状に見られる。	8	100																												
											Cg																							IVg		2	25.75~25.86m: 硬質。傾斜25° の割れ目の面が黒褐色化している。																														
											Bg																							IIg			26.00~26.46m: 長柱状コアを呈するが、傾斜70° の微細な割れ目が発達する。																													56	100
											IVg																							26.57m: 傾斜35° の割れ目にマンガン鉱染が見られる。			56																														
											Vg																							26.66~26.79m: 傾斜約60° の割れ目が発達。マンガン鉱染が見られる。																																56	100
											Cg																							IVg		2	26.96m: 傾斜65° の割れ目沿いに幅10mm程度の黒褐色充填物を挟む。																														
											IVg																							27.20m: 傾斜35° の割れ目にマンガン鉱染が見られる。			27																													100	
											Vg																							27.47~27.70m: 傾斜30~45° の細かい割れ目が発達。全体にマンガン鉱染が見られる。																																	27
											IIIg																							27.70~28.18m: やや硬質。割れ目は傾斜35~70° で密着するものが多い。割れ目の面は薄い褐色の充填物が分布。			27																													100	
IVg	27.96m: 傾斜30° の割れ目に幅3mmの黒褐色のマンガンを挟む。	27	100																																																																
27					+	明褐灰	Cg	IVg	γ	2			28.15~28.63m: 上端45°、下端51°で、微細な割れ目が発達し、コアは塊状化する。岩質は軟らかく、爪で削れる程度の硬さ。割れ目の面は黒色に変色し、一部は割れ目の面に沿ってマサ化する。	0	CL'																																																				
		Vg	28.35m: 傾斜45° の割れ目に幅2mmのマンガンを挟む。										4																											100																											
		Dg	28.63~29.22m: 径1~3cmの塊状コアを呈する。一部でマサ化する。割れ目の面は褐色化する。																																						4	100																									
		dg	28.64m: 傾斜50° の割れ目に幅1~6mmの灰白色粘土を挟む。										4																											100																											
28			+	明褐灰	Cg	IVg	γ	2			29.21m: 傾斜43° の割れ目に幅0.2~0.3mmのシルトフィルムを挟む。	0		CL'																																																					
											IIIg		29.22m: 以深はコアが硬くなる。5~15cmの割れ目間隔となりコアは良好。																							15	100																														
											IVg		29.22~29.46m: 鉛直の割れ目が分布する。割れ目によってマンガン鉱染が見られる。																									15	100																												
											IVg		29.57m: 傾斜25° の割れ目に砂を挟む。																							15	100																														
29			+	明褐灰	Cg	IVg	γ	2			29.74~29.75m: 傾斜45° で幅8mmの石英脈を挟む。	0	CL'																																																						
											IIIg																							29.80m: 以深はやや割れ目が多くなる。	15	100																															
											IVg																										15	100																													
											IVg																								15	100																															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └─ [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																																																																																																																																																					
																( ) 図 N値~深度																																																																																																																																																																																																																																				
31			+	明褐灰			IV <sub>E</sub>		γ	2		30.31~30.33m: 傾斜30°の割れ目が幅2cmでマサ化する。	0																																																																																																																																																																																																																																							
																																	C <sub>G</sub>	V <sub>E</sub>		30.48m: 傾斜45°の割れ目周辺は細礫状化する。割れ目面に酸化汚染が見られる。	25	[37]	100																																																																																																																																																																																																													
																																								IV <sub>E</sub>		30.67~30.93m: コアは非常に硬い。																																																																																																																																																																																																										
																																																																			Bg	II <sub>E</sub>		30.93~31.20m: 径1~3cmの岩片状を呈する。																																																																																																																																																																														
																																																																										C <sub>G</sub>	IV <sub>E</sub>		31.27~31.57m: 軟質。手で砕ける程度の硬さ。微細な割れ目が発達し、全体に割れ目の面は褐色化する。	9	[6]	100																																																																																																																																																																				
																																																																																	E <sub>G</sub>	VI <sub>E</sub>	dg	δ	3																																																																																																																																																															
																																																																																																												C <sub>G</sub>	V <sub>E</sub>		31.57~32.33m: 傾斜20~70°の割れ目が主体。割れ目間隔は1~5cmで岩片状を呈する。ハンマーの打撃で金属音を発する。																																																																																																																																					
																																																																																																																			IV <sub>E</sub>		32.33~32.65m: 岩片状を呈する。																																																																																																																															
																																																																																																																																														D <sub>G</sub>	VI <sub>E</sub>	dg	δ	3	32.76~33.41m: 傾斜30~50°程度の割れ目が発達し、コアは砂状~礫状からなる。	10	[10]	100																																																																																														
																																																																																																																																																							C <sub>G</sub>	IV <sub>E</sub>		γ	2																																																																																									
E <sub>G</sub>	VI <sub>E</sub>		cg		33.41~34.13m: 0.5~3cm間隔で割れ目が発達し、コアは礫状~岩片状となる。ハンマーの打撃でにがい音を発する。	4	[6]	100																																																																																																																																																																																																																																												
									D <sub>G</sub>	V <sub>E</sub>		δ	3	33.45~33.55m: 網目状に割れ目が分布し、割れ目沿いに劣化する。																																																																																																																																																																																																																																						
																																						E <sub>G</sub>	VI <sub>E</sub>	dg		34.13~34.65m: 割れ目が少なくコアは短柱~柱状となる。非常に硬質でハンマーの打撃で金属音がする。																																																																																																																																																																																																										
																																																																			C <sub>G</sub>	III <sub>E</sub>		γ	2	34.42~34.82m: 傾斜30°の割れ目が卓越し、割れ目の面は黒色化し、砂を挟む。	27																																																																																																										[30]	100																																																																
																																																																										IV <sub>E</sub>		3	34.82~35.75m: 割れ目に沿って風化・変質が進む。マサ化が進み、コアは軟質となる。																																																																																																																																																																							
																																																																																	D <sub>G</sub>	V <sub>E</sub>	IV <sub>E</sub>	γ																																																																																																																																																																
																																																																																																												IV <sub>E</sub>		δ																																																																																																																																						